

第五十二條 株主總會開會ノ期日八日前ニ十個以上ノ株券又ハ第十三條ニ依リ銀行ニ供託シタル十個以上ノ株券ノ受取書ヲ理事ノ定ムル場所ニ供託シタル株主ハ通常並ニ臨時總會ニ於テ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得

右ノ方法ニ依リ票決權ヲ證明シタル株主ニハ其ノ代表スル株券ノ數及票決數ヲ記載スル權利券ヲ無代ニテ交付スヘシ、供託シタル株券又ハ受取書ハ株主總會終結ニ至ル迄之ヲ供託シ株主ハ之ヲ其以前ニ取戻スコトヲ得ス、右供託株券ノ返還ハ理事ノ定ムル所ニ依リテ之ヲ爲ス

票決權アル株主名簿並ニ其株券數及票決權數ハ株主ノ請求アルトキハ之ヲ總會場ニ揭示スヘシ

第五十三條 株主ノ票決數ハ十株ニツキ一票トス

第五十四條 票決權ハ株主カ自身ニ之ヲ行使シ又ハ票決權アル株主ヲシテ代理セシムルコトヲ得

未成年者ハ其後見人ニ依リ、被保護者ハ其保護者ニ依リ妻ハ其代理者ニ依リ商會社ハ其ノ商號記書權者ニ依リ會社ハ其ノ代理權社員ニ依リ組合及營造物ハ其ノ理事ニ依リテ票決權ヲ行使スヘシ但シ此等ノ代理人ハ自身株主タルコトヲ必要トセス右代理人ノ票決權ハ總會開會ノ日ヨリ八日以前ニ之ヲ理事ニ對シテ證明スヘシ

第五十五條 總會ニ於テハ總裁又ハ副總裁又ハ之等ノ者故障アル場合ニハ理事會ノ一員議長トナル、議長ハ議題ノ順序ヲ定メ議事並ニ票決ヲ指揮ス

議長ハ最多數ノ票決權ヲ有スル株主中ヨリ二名ノ株主總代ヲ選任ス若シ其者之ヲ承諾セサルトキハ次に最多數ノ票決權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選任ス票決權數相均シキ場合ハ其間ニ協調ナキ場合ハ抽籤ニ依リテ之ヲ決ス

第五十六條 總會ノ權能ハ左ノ如シ

- (イ) 銀行事務ノ處理及重要事項ニ關スル理事ノ報告並ニ年貸借對照表ヲ受領シ理事ノ提案ニツキ議決スルコト
- (ロ) 理事及監査委員ヲ選フコト
- (ハ) 銀行ノ現金及計算ニ關スル監査委員ノ報告ヲ聞キ之ニ關シテ決議ヲ爲シ並ニ利益配當ノ方法ヲ決議スルコト
- (ニ) 理事カ本行ニ對スル責任ニ對シ採ルヘキ方法ヲ決議シ其執行委員ヲ選フコト
- (ホ) 監査委員ニ對シテ提起セラレタル債務者ノ抗告ニ關シ監査委員ト理事トノ間ニ生スル爭議ヲ裁斷スルコト
- (ヘ) 特別損失ヲ積立金ヨリ補充スルコト、新株募集ノコト、定款變更ノコト、銀行解散及精算ノ方法ニ關スル理事ノ提議ニツキ議決ヲ爲スコト但シ新株募集ノ方法ニ依ル資本金ノ増加並ニ定款變更ニ關スル決議ニハ官廳ノ認可アリタル場合ナルコトヲ留保スヘシ

(ト) 株主總會ノ權能ニ關スル事項ノ議事ノ目的ヲ以テ臨時總會ヲ召集スルコト

第五十七條 總會ニ於テハ其召集通告ニ掲クル事項ノミニ付テ議事ヲ爲スコトヲ得

株主總會ノ權限ニ屬スル事項ニツキ第五十二條ニ依リ票決權ヲ證明シタル十以上ノ株主ヨリ總會開會ノ年ノ一月十五日迄ニ之ヲ議題トセンコトノ申出ヲ理事會又ハ秘書長ニ對シテ爲シタルトキハ之ヲ次ノ通常總會議事目錄ニ掲クルコトヲ要ス

總會自身ニ於テモ十人以上ノ票決權アル株主ノ賛成アルトキハ右ノ如キ申出ヲ爲スコトヲ得然レトモ此ノ申出ニツキテハ臨時總會開會ニ關スルモノナル場合ヲ除キ直ニ其可否ヲ該總會ニテ議決スルコトナク只何レノ總會ニ於テ之ヲ議スヘキヤニツキテ決議ヲ爲スヘシ

第五十八條 本條及第七十二條ニ掲クル場合ヲ除キ出席株主ノ票決權數百五十以上ニ達スルニアラサレハ總會ハ有効ナル決議ヲ爲スコトヲ得ス

右ノ票決權數ヲ得サルトキハ更ニ總會ヲ召集スルモノトス但シ此場合ニハ總會開會ニ關スル公告(第五十一條)ハ總會期日前十日ニ又票決權ヲ證スル株券及受取書ノ供託並ニ代理權ノ證明(第五十四條)ハ同五日ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

前項第二回ノ總會ニ於テハ出席株主ノ員數及票決權數ノ如何ニ關セス有効ナル決議ヲ爲スコトヲ得但シ此事ハ總會公告ニ於テ特記スヘシ

第二回ノ總會ニ於テ只第一回ノ總會ノ日程ニ存スル事項ノミニツキ議決スルコトヲ得

第五十九條 總會ノ決議ハ過半數ニ依リ議長モ可否ノ數ニ加ハル可乎同數ナルトキハ議長ノ賛シタル意見ニ從フ但シ第五十六條(ト)號ノ決議ハ四分ノ三以上ノ多數ヲ得ルコトヲ要ス

第六十條 票決ハ票決紙ニ依リ又ハ議長ヨリ提議アリ且ツ總會カ可決シタル其他ノ方法ニ依リテ之ヲ爲スモノトス

第六十一條 理事會ヨリ提出アリタルニアラスシテ株主ヨリ提出セラレタル定款變更ニ關スル議案ニシテ總會ニ於テ議案トスルコトヲ承認セラレタルモノニツキテハ次ノ總會ニ於テ其可否ヲ議シ之ヲ票決スルモノトス

第六十二條 株主總會ニ於ケル總テノ選舉ハ投票箋ニ依リテ之ヲ爲ス

第一回ノ選舉ニ於テ絶對的多數ヲ得ルコト能ハサルトキハ比較的多數ヲ得タル者ヨリ選舉スヘキ人員ノ二倍ノ人員ヲ採リ其中ニツキ更ニ集約選舉ヲ行フ

同票數ヲ得タルモノ二人アルトキハ其所有株ノ多キモノヲ採リ所有株相均シキ場合ハ抽籤ニ依リ當選者ヲ定ム

第六十三條 定款ニ遵據セル總會ノ決議ハ總テノ株主ヲ拘束ス

第六十四條 總會ニ於ケル討議ハ議事録ニ載セ出席者ノ氏名ヲ附記スヘシ

議事録ニハ議長、株主總代及書記之ニ署名シ國王委員ノ承認ヲ要ス又議事録ニハ總テノ提案及決議及討議ノ結果ヲ記載スヘシ

特別規定

第六十五條 維納ニ在ル英澳銀行ハ其存續期間内ハ本銀行ノ援助銀行ノ地位ニ立ツ英澳銀行ト本行トノ關係ハ特別ノ規定ニ依ル

第六十六條 英澳銀行ハ特ニ締結スル契約ニ定ムル額並ニ期間本行ノ發行スル債券ニ對シテ貸付ヲ爲スモノトス

第五節 貸借對照表、利益配當及普通積立金

第六十七條 本行ノ營業年度ハ一月一日ニ始マリ十二月卅一日ニ終ル、但シ營業年度ノ中途ニ於テ營業ヲ開始シタル場合ニハ理事ノ見込ニ依リ其年ノ貸借對照表ハ翌年十二月卅一日ニ作成スルヲ妨ケス

第六十八條 每營業年度ノ終リニ於テ理事ハ一般資金及負債ノ對照表ヲ作製スヘシ但シ創立費用ハ之ヲ最初ノ十五營業年度ニ均等ノ負擔トシテ割當ツヘシ  
理事會ノ確定スル計算表ハ之ヲ監査委員ニ提出スヘシ

第六十九條 本行ノ利益トハスヘテノ費用並ニ普通積立金ヨリ生スル利益ヲ控除シタル純益ヲ云フ

利益ハ之ヲ左ノ如ク配分ス

- (イ) 一割ヲ積立金トス
- (ロ) 六分ハ株主ノ拂込金額ニ應シテ配當ス
- (ハ) 前二號ノ金額ヲ控除シタル殘額ノ一割ハ理事ニ給ス但シ此金額ノ内ヨリ第一ニ執行委員ノ加給ヲ引去リ殘額ハ理事ノ間ニ分配ス若シ此金額ノ中ヨリ執行委員ノ加給ヲ支辨スル能ハサルトキハ一般費用ノ中ヨリ之ヲ取ル
- (ニ) 前三號ノ金額ヲ控除シタル殘額ノ一部ハ理事ノ申出並ニ總會ノ決議ニ依リ之ヲ次年度ニ繰越ス
- (ホ) 最後ノ殘額ハ之ヲ株主ニ配當ス前(ニ)號ノ繰越ハ次年度ノ理事給ヲ定ムルニ當リテハ之ヲ計算ニ入レサルモノトス

第七十條 株主配當金ノ支拂ハ毎年總會期日ノ後遅クトモ八月ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

利益配當仕拂期日ノ後五ヶ年内ニ仕拂請求ナキトキハ其金額ハ準備金ニ繰入ル、モノトス

第七十一條 公稱資本額ニ達スル迄第六十九條(イ)號ニ規定スル割合ヲ以テ普通積立金ヲ作ルヘシ此ノ積立金ハ本行ノ財産トナリ定款ニ規定スル所ニ從ヒテ之ヲ使用ス又該積立金カ公稱資本金ニ達スルトキハ積立ヲ停止ス  
本行ノ利益カ拂込株金ニ對シテ六分ノ配當ヲ爲スニ足ラサルトキハ總會ノ決議ニ基キ積立金ヨリ之

ヲ補充ス又理事ノ申出ニ基キタル總會ノ決議ニヨリ特別損失ヲ此ノ積立金ヲ以テ填補スルコトヲ得  
該積立金カ公稱資本額ヲ下ルトキハ新ニ第六十九條イ號ノ割合ヲ以テ積立ヲ始ム

第六節 解散及清算

本行ハ左ノ事由ニ依リ解散ス

- (イ) 六名ノ理事又ハ株式資本金ノ半額以上ヲ所有スル株主ヨリ申出アリタルトキ
- (ロ) 全積立金及資本金ノ半額ヲ失ヒタルトキ

前記ノ場合ニ於テ直ニ開クヘキ株主總會ニ於テハ拂込資本金ノ三分ノ二以上ヲ代表スル株主カ  
出席シテ議決ニ與ルコトヲ要ス(第五十六條ト號及第五十九條)

第七十三條 解散ノ決議アリタルトキハ總會ニ於テ商法ニ依リ清算ノ方法ヲ定メ清算手續ヲ開始スヘ  
シ清算人ハ理事又ハ其他ノ者ヨリ之ヲ選フコトヲ得

總會ニ於テ清算ノ方法ヲ定メス又ハ行政官廳ノ定ムル條件並ニ請求ニ從ハサルトキ商法ノ規定ニ從  
ヒ清算手續ヲ開始ス

清算人ハ遲滯ナク清算手續ヲ開始シテ之ヲ完結シ次ノ總會ニ於テ清算方法ヲ報告スヘシ此ノ總會ニ  
於テ理事ニアラサル株主ノ過半数ヨリ與ヘラレタル「責任解除」ニヨリ理事ノ總員ハ株主ニ對スル責  
任ヲ免ル

總會ニ於テ解散ニ關係シタル株主ノミカ出席シタルカ爲メニ再ヒ開キタル總會ニ於テモ同様ノコト  
カ繰返サレタル場合ニハ前項ト同一ノ法律上効果ヲ發生ス

清算人ハ株主總會ノ決議並ニ行政官廳ノ認可ニ基キ解散シタル本行ノ權利義務ヲ他ノ銀行ニ移スコ  
トヲ得但シ引受ノ條件相同シキ場合ニハ英澳銀行ハ他ノ銀行ニ優先ス

前項ノ讓渡ニ依リ第三者ノ權利殊ニ抵當債券及其他ノ債券所持人ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス  
清算人ノ任命ヲ以テ理事會ノ權限ハ消滅ス但シ總會ノ權限ハ清算期間中ハ存續スルモノトス

第七節 爭議ノ裁判

第七十四條 銀行事務ニ關シ株主ト銀行ノ機關トノ間又ハ機關相互間ニ發生スル爭議ハ維納商事裁判  
所ニ於テ之ヲ裁判ス

株主全體ノ利益ニ關スル爭議ニツキテハ第五十六條(ホ)號ノ方法ニ依ル株主總會ノ決議ヲ經タルニ非  
サレハ之ヲ出訴スルコトヲ得ス

第八節 公 告

第七十五條 本行ノ公告ハ「維納新報」ニ三回之ヲ爲スヘシ公告ノ時ヨリ起算スヘキ期間ハ第三回目ノ  
公告ノ日ヲ以テ始マル

第九節 行政官廳ノ監督

第七十六條 本行ハ行政官廳ノ監督ニ服ス此ノ監督權ハ國王委員又ハ其代理者法律ニ從ヒ之ヲ行使スルモノトス

第七十七條 國王委員ハ本行ノ營業方法ヲ統監シ殊ニ抵當債券並ニ其他ノ債券ノ發行及之等債權ニ對スル擔保カ定款ニ定ムル所ニヨリ充分ナルヤ否ヤヲ監督シ且ツ本行ノ發行スル債券上ニ債券發行ノ最高額カ定款ニ違反セサルコトヲ認證スル爲メニ署名ヲ爲スヘシ又同委員ハ理事及ヒ副委員ノ會合ニ出席シテ意見ヲ述フルノ權ヲ有シ總會ニ出席スルノ義務ヲ有ス但シ理事ハ總會開會毎ニ同委員ヲ招請スルコトヲ要ス

同委員ハ銀行營業所内ニ於テ何時ニテモ銀行ノ帳簿並ヒニ文書ヲ閱覽スルノ權ヲ有ス

第七十八條 國王委員ハ理事委員又ハ總會ノ決議カ定款ニ違反シ又ハ之レヲ超越スルモノト思惟スルトキハ抗議ヲ提出スル權ヲ有ス  
此ノ決議ノ實施ニツキテハ上級廳ノ裁決ヲ經ヘク此ノ裁決アルマテハ其ノ決議ハ廢止セラレタルモノト看做ス

本行ハ國王委員ノ事務費ヲ毎年行政廳ノ定ムル所ニ依リ國庫ニ仕拂フヘキモノトス

第十節 抵當貸付

第七十九條 本行ノ貸付ハ充分ナル抵當物存在スルトキニ限リテ之ヲ爲ス

本行ノ抵當貸付ハ之ト既ニ其不動産上負擔スル債務ト合シテ其不動産ノ價格ノ半額ナルトキ又ハ其不動産上ニ抵當權ヲ有スル先位債權者カ其地位ヲ銀行ニ讓リ銀行ノ貸付金ハ其不動産上ニ第一抵當權ヲ有シ且ツ貸付金及之ニ關聯スル銀行ノ債權トノ合計カ其不動産ノ半額ナルトキニ限リ充分ナル擔保アルモノト解ス

獨立家屋并ニ財産ノ構成部分トシテ抵當ニ供シ得ル經濟的建物ハ本行カ同意スル保險會社ト保險契約アル場合ニ限り之ニ對シテ貸付ヲ爲スコトヲ得

保險契約書并ニ保險料受取書ハ債務者カ本行ニ利子并ニ元金内金ヲ支拂フ毎ニ銀行ニ提示スルコトヲ要ス

第八十條 工場、法律ニ依リ執行ヲ免レタル不動産、劇場、鑛山及石坑ニ對シテハ貸付ヲ爲スコトヲ得  
得ス葡萄園ニ對シテ其價格ノ三分ノ一迄貸付ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 貸付金額、貸付ノ方法、(現金ヲ以テスルカ又ハ債券ヲ以テスルカ)利率、利息及元金支拂ノ方法并ニ手数料ハ本行ト債務者ノ契約ヲ以テ之ヲ定ム

第八十二條 銀行債務者ノ義務ノ内容ハ銀行ノ作ル證書ヲ以テ之ヲ確定ス貸付ニ關スル債務證書其他文書ニハ當事者之ニ署名シ裁判所又ハ公證人ノ認證ヲ要ス

第八十三條 抵當債權ニ關スル債務證書ニハ左ノ事項ヲ載スルコトヲ要ス

- (イ) 借入金額
- (ロ) 銀行ニ仕拂フヘキ元金利息及手数料ノ額、此等ノ金額中ヨリ銀行ノ不利益ノ爲メニ債務者ノ所得税ヲ引去ルコトヲ得ス
- (ハ) 總テノ費用并ニ手数料支拂義務ノ引受、殊ニ元金、利息、手数料其他引受ケテ爲シタル義務ノ不履行ヨリ生スル出費支拂ニ關スル書面ニ依ル合意及抵當權ノ消滅
- (ニ) 土地臺帳上ノ特徴ヲ詳記スル抵當物ノ精密ナル表示、及元金、利息、及手数料及定款ニ基キ發生スル權利ノ擔保トシテ抵當權ヲ此ノ不動産上ニ設定シタルコトノ表示
- (ホ) 總債務者及抵當物總占有者ノ連帶アルコトノ明示并ニ保證資金ニ關スル契約
- (ヘ) 銀行ノ請求アルトキハ各年ノ經過後相當ノ期間内ニ銀行ノ債權ニ先行スル抵當債權者ニ對シ利息ノ支拂アリタルコトヲ受取書ノ提出ニ依リテ證明シ且ツ抵當物ノ負擔スル租税其他ノ公課ノ延滞ナキコトヲ證明スル義務アルコト
- (ト) 火災保險ニ付シタル不動産(銀行ノ抵當物タル)ニツキテ保險料ヲ正規ニ仕拂フノ義務アルコト并ニ銀行ニ貸付金ノ利息ノ仕拂フ毎ニ保險料受領書ヲ銀行ニ提示スル義務アルコト
- (チ) 債務者及抵當物ノ占有者ハ絕對ニ本行ノ定款ノ規定ニ服シ且ツ貸付及抵當ニ關シテハ定款ノ規定ニ準據シテ維納ニアル裁判所ニ於テ訴訟行爲ヲ爲スヘキコト但シ裁判所カ任意訴訟手續ヲ許サ

、ル事項ニツキテハ此ノ限リニ非ス

第八十四條 本行ノ爲ス抵當貸付ノ爲メニ本行カ他ノ債權者ヨリ讓渡セラレタル抵當權ノ順位ハ公簿ノ公ノ抄本ニ依リテ之ヲ證明スヘシ

第八十五條 抵當物ノ價格ハ銀行ノ機關之ヲ決定ス、此ノ價格ノ決定ニハ裁判上并ニ裁判外ノ評價、多年ノ收益、賣買貸貸契約、租税及附加税額其他ノ賦課及土地債務等ヲ成ルヘク綿密ニ審酌スルコトヲ要ス

鑑定ノ費用ハ借入申込者前拂ヒヲ爲スヘシ

第八十六條 森林カ抵當ナルトキハ豫メ銀行ト約スル方法ニヨリテ之ヲ經營シ銀行ノ同意ナクシテ其經營方法ヲ變更スルヲ得ス

銀行ハ抵當タル森林ニ對シテ監視權ヲ有シ何時ニテモ其狀態ヲ検査スルコトヲ得

第八十七條 貸金ハ銀行カ一切ノ公簿上ノ登記ヲ結了シ且ツ銀行ヨリ申込ミタル條件ハ悉ク充タサレタルトキニ始メテ債務者ニ拂渡ヲ爲スモノトス

但前項ノ手續ヲ結了シタル後ト雖モ抵當物ノ價格カ下落シテ定款ノ規定ニ依リ充分ナル擔保タルニ足ラサルトキ(第七十九條)又ハ借入申込者カ貸金拂渡ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ三十日以内ニ現金ヲ受取ラサルトキ又ハ死亡シタルトキ又ハ其ノ財産又ハ抵當物占有者ノ財産ニ對シテ破産又ハ協借手

續開始アリタルトキハ貸金ノ拂渡ヲ拒絶スルコトヲ得

第八十八條 本行ハ第七十九條ニ規定スル擔保ヲ有スル抵當債權ヲ消滅セシムルコトヲ得  
前項ニ依リ償還シタル抵當債權ニ基キ債券ヲ發行スルニハ定款ニ依リ直接貸付ニ依リ銀行ニ與ヘラ  
ル、スヘテノ權利カ償還ニ依リ銀行ニ與ヘラル、場合ナラサルヘカラス故ニ原債務證書ニ於テ此ノ  
權利カ確保セラレ居ラサルトキ又ハ署名カ裁判所又ハ公證人ヨリ認證セラレ居ラサルトキハ債務者  
及抵當不動産ノ所有者ハ相當ノ追完的表意ヲ爲サ、ルヘカラス又後ノ抵當債權者ハ今償還セントス  
ル債權ノ優先權ヲ承認シ且ツ前記追完的表意ニ依リ確保セラレタル權利ニ關シテ優先權ヲ讓ラサル  
ヘカラス

債務者又ハ抵當不動産ノ所有者又ハ後ノ債權者ヨリ爲サルヘキ表意ハ裁判所又ハ公證人ノ認證ヲ要  
シ且ツ公簿ニ登記スルコトヲ要ス

第八十九條 抵當貸付又ハ舊抵當債務ノ償還ニツキテハ理事又ハ理事ヨリ授權セラレタル委員之ヲ決  
定ス

第九十條 貸付ヲ拒絶スルトキハ拒絶ノ理由ヲ開示スルコトナクシテ借入申込者ニ其旨ヲ通知スヘシ  
第九十一條 遲滯アル債務者ニ對シテハ支拂期日及相當ノ期間ヲ定メテ期限到來ノ給付ノ支拂ヲ督促  
狀及受領書ヲ以テ催告スヘシ但シ此等ノ書面ヲ以テ督促ヲ爲サ、ルモ銀行ハ定款及法律上之ニ屬ス

ル權利ノ行使ヲ妨ケラル、コトナシ

第九十二條 期日ニ於テ元金、利息、手数料、費用等ニツキ支拂ヲ遲延シタルトキハ期日ヨリ實際支  
拂ノ時迄年六分ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ支拂ハシムヘシ

第九十三條 左ニ掲クル場合ニハ銀行ハ債務證書記載ノ期日ニ拘ラス三ヶ月其ノ豫告ヲ以テ貸付金ノ  
全部又ハ一部ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

- (イ) 抵當物検査ノ結果其ノ價格カ定款規定ノ擔保ニ不足スルヲ發見シタルトキ
- (ロ) 債務者カ六週間内ニ三回催告ヲ受クルモ元金内金、利息及手数料等ヲ支拂ハサルトキ
- (ハ) 債務者カ第八十三條(ハ)(ト)號ニ掲ケラレ且ツ債務證書ニ於テ引受ケタル義務ヲ盡サ、ルトキ
- (ニ) 債務者カ保證資金ニ關スル義務ヲ盡サ、ルトキ
- (ホ) 債務者カ始メ銀行ト約シタル森林經營方法ヲ銀行ノ同意ナクシテ變更シタルトキ

第九十四條 本行ハ抵當物カ負擔スル租稅其他ノ公課、地代、利息并ニ保險料ノ仕拂ヲ債務者ノ計算  
ヲ以テ引受ケ第九十六條ノ規定ニ於テ保險金ノ支拂ヲ銀行ニ爲スヘキコトヲ保險會社ト契約スルコ  
トヲ得

第九十五條 銀行カ抵當債券ヲ以テ貸付ヲ爲シタル場合ニハ債務者ハ返済期限到來以前ニ貸金ノ全部  
又ハ一部ヲ貸付ヲ受ケタルトキト同種ノ抵當債券ヲ以テ返還スルコトヲ得但シ返金額ハ債務證書ニ

特別ノ定メナキ場合ニハ少クトモ六ヶ月以前ニ裁判所又ハ公證人ノ認證アル書面ヲ以テ銀行ニ通知スヘキモノトス

前項ノ金額ヲ期限ニ返還セサル場合ニハ債務證書ニ記入シタル期限ヲ忘リタル場合ト同様ノ取扱ヲ受クヘシ

第九十六條 銀行カ保險ヲ引受ケ且ツ保險金仕拂ヲ約シタル抵當物カ天災事變ノ爲メニ損害ヲ被リタルトキハ不動産ノ所有者ハ理事ノ定ムル期間(此期間ハ之ヲ延長スルコトヲ得)内ニ貸付又ハ舊債償還ヲ爲シタル當時ノ状態ニ其不動産ヲ修理スルコトヲ要ス不動産所有者カ此ノ義務ヲ盡サ、ルトキハ銀行ハ銀行ノ債權ヲ超過セサル限度ニ於テ保險金ヲ保留シテ此レヲ以テ債務ノ辨濟ニ充テシムルコトヲ得

前記不動産ノ修理ヲ終リタルトキハ其間ニ銀行ノ利益ノ爲メニ満期トナリタル支拂金ヲ引去リ保險金ヲ債務者ニ拂渡スヘシ但シ修理中ニ於テ修理ノ程度ニ應シテ一部ツ、ノ保險金ヲ支拂フコトアル

第九十七條 抵當貸付金ノ利息並ニ年賦金ハ現金又ハ本行ノ抵當債券ノ利札ヲ以テ支拂フヘシ

第九十八條 借入申込者ハ之ヲ代表スル支店ヲ經テ其申込ヲ爲スコトヲ得支店ノ組織ハ理事會之ヲ定ム

第九節 抵當債及債務證券

第九十九條 抵當債券トハ銀行カ定款ニ從ヒテ爲ス抵當貸付又ハ舊抵當債務償還ニ基キテ發行スル證券ニシテ其證券上ニ定ムル條件ニヨリテ其所有者ニ利息及元金ノ支拂ヲ確保スルモノヲ云フ

債務證券トハ第六條一、(イ)ハ(ニ)ニヨリ爲サレタル前貸金ノ債權ニシテ定款所定ノ擔保ヲ有スルモノニ基キテ銀行カ發行スル證券ニシテ其證券上ニ定ムル條件ニヨリテ其所有者ニ利息及元金ノ支拂ヲ確保スルモノヲ云フ

此等債券ノ利息ハ半年毎ニ利札又ハ受取書ニ對シテ之ヲ支拂ヒ又ハ元金ノ仕拂期ニ同時ニ之ヲ支拂フ

第一百條 抵當債券ハ第三十五條ニ定ムル所ニヨリ作成シ之ニ銀行印ヲ押捺シ且ツ國王委員之ニ抵當債券ニ對シテハ定款所定ノ引當アルコトヲ認證スルモノトス

第一百一條 抵當債券ニハ總テ期限ヲ附シ其期限ニ必ス支拂ヲ爲スヲ要ス但シ期限前ト雖モ券面額以上ヲ以テ抵當債券上ニ反對ノ規定ナキ限り何時ニテモ之ヲ買入レ又ハ抽籤償還ヲ爲スコトヲ得清算ノ場合ハ銀行ハ期限ノ如何ニ拘ハス總テノ抵當債券ヲ償還スルコトヲ得但シ其償還ハ券面額以下ヲ以テスルヲ得ス

本行ノ抵當債券ハ之ヲ公共ノ金取引所ニ讓渡シ又ハ質入シ其相場ヲ取引所新聞上ニ記載スルコトヲ



得

第二百二條 抵當債券ハ無記名若クハ記名トス但シ記名ノモノヲ無記名トシ又ハ無記名ヲ記名トシ大券ヲ小券ト交換スルコトヲ得

右ニ關スル細則及手数料ハ理事之ヲ定ム

第二百三條 抵當債券ノ券面額及利率ハ種々ナルコトヲ得但シ券面額ハ百「クローネン」ヲ下ルヲ得ス  
抵當債券ハ其引當テタル抵當債券ノ内容ニ從ヒ且ツ之レト一致セシムル爲メ法律ノ規定ヲ斟酌シテ硬貨名ヲ以テ發行スルコトヲ得

第二百四條 發行セラレタル抵當債券ノ總額ハ常ニ抵當債權ノ引當ヲ有スヘク且ツ何時タリトモ拂込株式資本金ノ二十倍ヲ超過スルコトヲ得但シ本行ハ營業開始ノ初期ニ當リテハ其抵當貸付高が一億「クローネン」ニ達セサル間ハ現金又ハ孤兒財產放資ノ目的タルコトヲ得ル有價證券ヲ抵當債券ノ引當トシテ銀行ノ金庫ニ供託シテ二百萬「クローネン」ニ達スル迄ノ抵當債券ヲ發行スルコトヲ得  
銀行ハ前記現金ヲ以テ孤兒財產放資ノ目的タリ得ル有價證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコトヲ得但シ此場合ニハ貸付ハ其有價證券ノ時相場ヨリ一割丈ケ少キコトヲ要シ且ツ此有價證券ハ前記抵當債券ノ引當トシテ銀行ノ金庫ニ供託スルコトヲ要ス  
前項ノ外前記抵當債券ノ發行及之ニ依リテ銀行カ負擔スル義務ニツキテハ抵當債券ニ關スル本定款

ノ規定ノ適用ヲ受ク

第二百五條 無記名利息付抵當債券ハ半ケ年毎ノ利札及新利札請求券ヲ添付ス

第二百六條 銀行ハ無記名抵當債券及利札ノ所持人ヲ以テ其所有者ト看做ス

第二百七條 單純ナル又ハ特約ヲ附シタル記名式利息付抵當債券ノ利息ハ受取書ニ對シテ之ヲ支拂フ

右ノ受取書ハ債券ノ主要部(番號、券面額、利率、發行年月日)支拂期日、利息額及債券面ノ姓名又ハ利息仕拂ヲ受クル權利アルコトヲ證明スル者ノ姓名ヲ記入シタルモノナルヲ要ス

第二百八條 銀行ハ債券上ニ記セラレタル者ヲ以テ其債券ノ所有者ト看做シ債券讓渡、利息及元金ノ支拂ノ場合ニハ讓渡書及受領書ニハ前記ノ者ノ署名アルコトヲ要ス但シ銀行ハ其署名ノ眞偽ヲ調査スル義務ナシ

第二百九條 抵當債券ノ所有者カ債券受領前又ハ受領ノ際ニ文書ヲ以テ裁判所又ハ公證人ノ認證アル署名ノミヲ銀行ニ於テ眞正ト認ムヘキヲ請求シタルトキハ銀行ハ前記ノ署名ヲ持參スル者ニ對シテノ利息及元金ノ支拂ヲ爲シ又ハ債券ノ書替又ハ交換ヲナス義務ヲ負フ

第三百十條 市町村其他官廳ノ保護ノ下ニアル組合及營造物カ其所有抵當債券ニ基キ利息又ハ元金ヲ銀行ニ請求スルトキハ受取書ニ此等ノ團體又ハ營造物ノ印章ヲ附スヘシ但シ此等ノ者カ債券元金ヲ銀行ニ支拂フトキ又ハ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ所持人拂ノ債券ト交換セントスル場合ニハ保護官廳ノ同意

ヲ要ス

第百十一條 抵當債券カ明ニ未成年者又ハ被保護者宛ノモノナルトキハ受取書ハ權限アル後見人又ハ保護者ノ作製スル所ナラサルヘカラス但シ前條ノ場合ニハ後見裁判所ノ同意アリタルコトヲモ證明スヘシ

第百十二條 利息ハ抵當債券ノ滿期日ヲ以テ止ム但シ通知解約ニ依リ元金ヲ償却シタルトキ其支拂期日ト利札ノ支拂期日トカ一致セサルトキハ割合ニ應シテ元金支拂ノ時迄ノ利息ヲ仕拂フ

銀行カ債券ヲ償還スルトキハ債券、滿期トナラサル利札及新札請求券トヲ銀行ニ返還スヘシ若シ債券所持人カ滿期トナラサル利札ヲ引渡サ、ルトキハ元金ヨリ其額ヲ控除シテ償還ヲ爲スモノトス

第百十三條 抵當債務者ヨリ銀行ニ仕拂ハレタル現金ハ之ヲ以テ抵當債券ノ償還ニ充テ又ハ理事會ノ定ムル所ニヨリ之ヲ使用スヘシ

第百十四條 抵當債券ノ抽籤償還ニハ官廳ノ許可ヲ得テ割増金ヲ附スルコトヲ得

第百十五條 償還ノ爲メノ抽籤ハ之ヲ公行シ其行爲ニツキテハ公證人ヲシテ記録ヲ作ラシムヘシ

第百十六條 當籤番號ハ銀行ニ於テ記録シ銀行ノ公告ニ充テタル新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

當籤抵當債券ノ仕拂ハ抽籤ノ日ヨリ二ヶ月以後六ヶ月以内ニ之ヲ爲スヘシ而テ利息ハ債券ノ支拂ヲ爲シ得ル日ニ止ムモノトス

第百十七條 當籤シタル所持人拂抵當債券ノ利札ハ直ニ之ヲ仕拂フ但シ前條ノ規定ニヨル利息ハ元金仕拂ノ際ニ之ヲ控除スヘシ

當籤債券ノ番號ト未償還抵當債券トハ常ニ同時ニ抽籤表ニ掲クヘシ

第百十八條 償還ヲ爲シタル抵當債券ニハ直ニ無効ノ印ヲ捺シ理事、國王委員及一監査委員ノ面前ニ於テ直ニ之ヲ毀滅スヘシ此毀滅ニ關シテハ記録ヲ作ルヘシ

第百十九條 仕拂期日後三年内ニ仕拂ハレサル利息及三十年内ニ仕拂ハレサル抵當債券元金ハ積立金ノ利益ノ爲メニ時効ニカ、リ以後之ニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第百二十條 債務證券ノ發行、作成、償還期、利息ノ支拂、利息及元金ノ時効、及償還券ノ毀滅ニ關シテハ本節中抵當債券ノ規定ヲ準用ス

債務證券ノ券面ハ二百「クローネン」以上トシ定款ニ規定スル債權ニヨリ完全ニ引當テラレ居ラサルヘカラス又其ノ總額ハ抵當債券ヲ含メテ拂込株式資本金ノ二十倍ヲ超過スルコトヲ得ス

### 第十二節 保證 資金

第百二十一條 第七十九條ニ規定スル引當ノ外尙債務者ハ他ニ適當ノ保證ヲ供セサル限り銀行ニ對スル義務履行ノ擔保トシテ貸付金又ハ舊債償還額ノ五分ニ相當スル金額ヲ保證金トシテ積立ツヘシ右ノ金額ヲ集メテ銀行ニ於テ保證資金ナルモノヲ置ク

第二百二十二條 保證資金ハ理事ノ見込ニ依リ左ノ方法ノ何レカニヨリテ使用ス

(イ) 銀行ノ債權ノ擔保タル不動産上ニ第二番抵當權ヲ以テ貸付ヲ爲スコト

(ロ) 第六條第一項(イ)號ニ掲クル其他ノ不動産ニ對スル抵當貸付

(ハ) 抵當物ニヨリテ擔保セラル、有價證券ヲ買入レ之レヲ銀行ノ金庫ニ供託スルコト

(ニ) 現金ノ儘ニテ積立ツルコト

(ホ) 保證人ヲ立テシメテ貸付クルコト

第二百二十三條 各債務者ハ定款ニ依リ保證資金ノ上ニカ、ル總テノ義務ノ履行ニ對シテ連帶ヲ以テ自己ノ積立金ヲ限度トシテ其責ニ任ス

第二百二十四條 保證資金ニ新加入ノ抵當債務者ハ其ノ積立金ノ限度ニ於テ自己ノ加入前ニ發生シ未タ滿期ニ至ラサル銀行ノスヘテノ債權ニ對シテモ責ヲ負フ但シ自己ニ貸付金カ拂渡サレタルトキニ既ニ銀行ノ爲メニ滿期トナリタル債權ニツキテハ此限ニ非ス

第二百五條 保證資金ニ對スル各抵當債務者ノ積立金ハ其積立ヲ爲シタル債務者ノ所有ニ屬ス但シ第二百二十三條ノ負擔ヲ有スルモノトス

第二百二十六條 各抵當債務者ハ貸付ヲ受クル際ニ契約シタル額ヨリモ多クノ保證積立ヲ爲スコトヲ要セス且ツ債務者ハ貸付金ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ其比例ニ依リ且ツ其時期ヨリ第二百二十三條ノ責任

ヲ免カル、モノトス

但シ元金全部ヲ返還シタル場合ハ尙其後六ヶ月ハ保證資金積立金ニ關スル義務ハ存續ス

抵當債務者ハ六ヶ月ノ經過後其時ニ於ケル決算ノ結果保證資金上ノ賠償義務ナキコトヲ承認セラレタルトキ始メテ積立金ノ返還ヲ銀行ニ請求スルコトヲ得

第二百二十七條 銀行ハ抵當債務者カ他ノ定款ニ定ムル擔保ヲ供シタルトキハ保證積立義務ヲ免除スヘシ

第二百二十八條 抵當債務者カ其義務ヲ適法ナル時期ニ履行セサルトキ及銀行カ抵當債務者ノ爲メニ損失ヲ被リタルトキハ銀行カ保證資金ヲ以テ此等ノ缺損ヲ補充ス

第二百二十九條 抵當債務者カ其義務ノ履行ヲ怠リタルトキハ銀行ハ抵當債券及債務證券ノ所持者ニ對シテ銀行カ有スル義務ヲ保證資金又ハ銀行財産ニ依リテ前拂ヲ爲スヘシ而シテ其後抵當債務者カ履行ヲ爲シタルトキハ先キノ前拂金ハ之ヲ保證資金又ハ銀行財産ヘ返スコトヲ要ス

第二百三十條 第二百二十九條ニ掲クル仕拂ニヨリテ生シタル費用ハ遲滞セル抵當債務者ノ負擔トス

第二百三十一條 債務者カ全ク履行ヲナサ、ルトキハ銀行ハ此者ニ對スル元金利息及手数料ノ債權ヲ保證資金中ヨリ辨濟セシム

第二百三十二條 前條ニ依リ保證資金ヨリ引去ラレタル金額ハ總債務者其ノ未拂ノ保證積立金額ニ應シ

テ負擔スルモノトス即チ此缺損補填ノ通知ヲ受ケタル時ニ次ク利子支拂期ニ六分ノ利息ト共ニ自己ノ負擔額ヲ現金ニテ支拂フヘキモノトス

第三百三十三條 保證資金ノ各債務者割當額ノ給付ニ關シテハ第九十二條ノ規定ヲ準用ス

第三百三十四條 第三百一十一條ニ依リ既ニ保證資金ヨリ損失ヲ補填シタル後ニ抵當債務者カ履行ヲ爲シタルトキハ其金額ハ保證資金モ繰入ルモノトス

第三百三十五條 保證資金ノ運用ヲ容易ニスル爲メニ其資金中ヨリ特別準備金ヲ作ル此ノ準備金ハ左ノモノヨリ成ル

(一) 支拂期日ヨリ起算シテ五ケ年内ニ仕拂ヲ請求セサル利益配當金

(二) 時効ニカ、リタル抵當債券及債務證券ノ利息並ニ元金

(三) 支拂遲滞ニ對スル違約金

(四) 保證資金中ニ或原因ヨリ入り來リタル金(第三百三十四條)

(五) 銀行カ引受ケタル抵當物ノ轉賣ニ依リテ生シタル利益

第三百三十六條 定款ニヨリ保證資金ヲ以テ補填ヲ爲ス場合ニハ第一ニ特別準備金ヲ以テシ尙不足アル場合ニ始メテ保證資金ヲ以テ補充ヲ爲スモノトス

第三百三十七條 銀行ノ債務者ハ何時ニテモ理事ニ保證資金及其準備金ニ關スル帳簿ノ閱覽ヲ求メ又ハ

其狀況ニツキ報告ヲ求メ且ツ異議アルトキハ理事會ニ口頭又ハ文書ヲ以テ抗告ヲ爲スコトヲ得理事會ハ此抗告ヲ調査シ理由アリト思惟スルトキハ直ニ相當ノ處分ヲ爲スノ義務ヲ負フ若シ抗告人カ理事ノ言明又ハ處分ニ満足セサルトキハ國王委員又ハ監査委員ニ對シテ再調査ヲ求ムルコトヲ得  
第三百三十八條 保證資金ニ關スル第三十六條、第四十四條、第八十三條、第九十三條、第二百一十一條乃至第三百三十七條ノ規定ハ後ニ維納新報ヲ以テ公告スヘキ時期以後ノ營業ニ對シテハ適用ナシ  
前項ノ時期以後ハ債務者ハ貸付金又ハ舊債償還金ノ二厘五毛以上一厘以下ヲ一回積立ツヘシ  
此定款ハ千八百八十一年七月二十日ノ定款ヲ改正シテ千九百五年十月二十四日內務大臣ノ認可ヲ受ケタリ

附 錄 第 一 號 雜 形 (株 券)

二百クローネン

第 何 號

澳國不動産銀行株券

此株券ノ所有者ハ本行定款ニ依リ本行ノ資金及利益ニ對シ各株主ニ屬スル總テノ權利ヲ有ス

維 納 年 月 日

澳國不動産銀行

此株券ノ所有者ハ本行ノ資金及利益ニ對シ本行定款ニ依リ各株主ニ屬スル總テノ權利ヲ有ス

第二號 雜 形 (株券利札)

第何 號	株券附屬利札
英國不動産銀行ハ此利札ノ持參人ニ此利札引換ニテ何年ノ純 益中ヨリ第何號株券ノ配當金ヲ支拂フヘシ 但シ此利札支拂期日ヨリ五ヶ年内ニ在拂ヲ請求セサルトキハ 其金額ハ積立金ニ歸入レラルヘシ	
總現金方	何 某

第三號 雜 形 (新利札請求券)

第何 號	株券附屬新利札請求券
英國不動産銀行ハ此新利札請求券引換ニ第何號株券ニ對シ何 年ニ於テ發行スヘキ利札ヲ交付ス	
總現金方	何 某

### 第四章 伊太利國

#### 第一節 沿革及實況

伊太利ニ於テハ不動産信用組織ノ確立ニ關シテハ種々ナル困難アリ全國ヲ營業區域トスル一株式會社ヲ設立スルコトハ財政上及特權上ノ理由ニヨリ到底不可能ナリキ故ニ政府ハ一八六六年ニ不動産信用ニ關スル働キハ從來不動産貸付ノ業務ヲ爲シ居リシ慈善的又ハ貯蓄機關ヲシテ之ニ當ラシムルコトニ決定シ各已ニ其營業區域ヲ割當テタリ

右ノ不動産信用機關ハ「ウーブル、ド、サンポール、ド、チュリン」ル、モン、デ、バシ、ド、シアンヌ」ミラ  
 ン及ボローニユ貯蓄銀行「ネーブル銀行ニシテ一八七〇年ニハ「シシリ銀行」一八七二年ニハ「カグリア  
 リ貯蓄銀行」、一八七九年「サン、エスプリ、ド、ローム銀行」モ同シキ特權ヲ得タリ

此等ノ不動産信用機關ノ貸付額ハ伊太利全國ニ於テ一八七三年ニハ一億リールニ過キサリシカ一八七  
 五年ニハ一億五千萬リールニ一八八五年ニハ三億三千四百萬リールニ一八九八年ニハ十三億リール  
 (本文ニハ百三十億トアレトモ別表ニヨレハ十三億ナリ)ノ多キニ達シタリ一八八五年二月二十八日ノ  
 法律ハ不動産銀行ニ大ナル活動ノ餘地ヲ與フルノ趣旨ヲ以テ從來ノ各銀行ノ營業區域ヲ廢シ資本家又  
 ハ地主組合ノ設立ニ便シタリ然レトモ新法ハ實際ハ別ニ著シキ變化ヲ伊國ノ不動産組織上ニ及ホスコ

トナク只伊太利國立銀行ノミカ此ノ新法ノ利益ヲ享ケ一八八九年ニハ其不動産貸付ノ額ハ倍加シ六億八千百萬リールニ達シタリ然ルニ程ナク都市及村落ノ不動産上ノ恐慌起リタル爲メ前記ノ一八八五年ノ法律(各銀行ノ營業區域ヲ廢スル)ニ反對スル方法ノ適用ニヨリ右ノ恐慌ヲ治シ得ヘシト爲シ一八九〇年七月十七日ノ法律ヲ以テ大資本ヲ有スル唯一ノ銀行ノミニ全國ヲ營業區域トシテ活動スルコトヲ許シ他ノ銀行ハ又舊ノ如ク自己ノ營業區域ヲ地方ニ限定セラレタリ

右ノ法律ニヨリ設立セラレタル伊太利不動産銀行(Institut Italien de Credit foncier)ハ豫想通ノ發達ヲ爲サス其貸付額ハ一八九四年ニ政府ノ指定額ニ達セサリシカ故ニ其特權ヲ奪ハレタリ而シテ一八九六年六月三十日ノ勅令ハ再ヒ各銀行指定營業區域制ヲ撤去セリ

右ノ如ク伊太利ノ不動産組織ニ相反對スル經濟上ノ主義ニ影響ヲ受ケ轉々變化ヲ受ケタリ

其後ハ政府ハ數多ノ不動産銀行ニ特權ヲ與ヘタルヲ以テ其結果其特權銀行間ノ競争起リタリ因ツテ政府ハ一國立銀行ノミニ大ナル特權ヲ與ヘ不動産與信用ノコトハ其獨舞臺タル様ナリシカ他ノ銀行ノ不平起リ最後ニ再ヒ自由競争ノ状態ニ歸セリ今日ニ於テハ伊太利ニ於テハ五個ノ特權銀行カ不動産信用業務ヲ爲セリ「ウーヴル、ピエ」、「モント、デ、バツシ」ミラン及ボローニユ貯蓄銀行及伊太利不動産銀行是レナリ其他ノ銀行ハ種々ノ理由ニヨリテ解散シタリ

此等ノ殘存ノ不動産銀行ハ皆同法律ノ下ニ立テリ即チ一八八五年ノ法律ノ貸付ノ割合、償還ノ方法及

債券償還ノ條件等ヲ規定セリ而シテ同法律ニヨレハ債券ノ利率ト貸付ノ利率トハ嚴格ニ相等シキコトヲ要シ債券ノ利率ヲ五分、四分五厘、四分ニ限定シ一八九〇年ノ法律ハ以上ノ利率ノ外ニ三分五厘ナル利率ヲ附加セリ又債券發行額ハ貸付額ニ比例スヘク且ツ資本金及積立金ノ五倍ヲ超ユヘカラサルコト、セリ貸付ハ曇キニハ債券ヲ以テセルコトアリシモ現今ハ伊太利不動産銀行ハ現金ヲ以テス

伊太利不動産信用機關一覽表

(一八九八年十二月末)  
日現況、單位リール

名	稱	資本金	抵當貸付	公共團體 貸付	抵當債券	公共團體 債券	積立金
伊太利不動産銀行		一〇〇,〇〇〇,〇〇〇	七二,一九二,七〇〇		三五,六〇五,五〇〇		二,三六八,三九四
バツシ銀行		一〇,〇〇〇,〇〇〇	二六,九六八,三六九		二七,七二八,〇〇〇		五三五,三八二
サン、ポール銀行		一五,〇〇〇,〇〇〇	五四,六〇二,三三七		五四,六〇三,〇〇〇		六七六,七九二
ミラン銀行		五,〇〇〇,〇〇〇	一六,一三一,九〇五		一六,三八七,五〇〇		一,七七六,三二六
ボローニユ銀行		一〇〇,〇〇〇,〇〇〇	三七,九一四,七四九		三六,二二二,五〇〇		四二〇,〇二八
ネーブル銀行不動産信用部			九〇,四七六,五〇〇		一三四,八八五,五〇〇		
伊太利國立銀行不動産信用部			一九三,五〇〇,〇〇〇		一九三,〇四三,〇〇〇		
サンエスプリ不動産信用部			一一,三四六,〇〇〇		一一,四九一,〇〇〇		
預金及貸付金庫				四五八,五八三,三五四		一一,五二一,〇〇〇	二六二,九一七
公益事業及農業組合					六八,七七〇,〇〇〇		
ミラン貯蓄銀行							

ボロニーユク	108,500,000	649,333,610	458,583,354	726,222,000	12,522,000	603,829
モン、デ、バツシ						
計						

二一八

第二節 法 律

伊太利土地抵當銀行法

第一條 土地抵當銀行ハナポリ及ビシチリヤ銀行シエナ牧業貯蓄會社、トリーン市サン、バオロ慈惠會社、ミラノ、ボローギヤ並ニカリアリ三市ノ貯蓄會社及ヒ羅馬市サント、スヒリト銀行ニ於テ之ヲ營業ス

前項ニ記載スル諸會社ハ本邦各州ニ於テ營業スルコトヲ得  
政府ハ勅令ヲ以テ百萬リ一レ以上ノ資本ヲ所有スル會社並ニ組合ニ對シテ本行ノ營業ヲ特許スルヲ得ヘシ

以上本行ヲ營業スル會社又ハ組合ハ其資本十倍ノ額ニ達スルマテ土地證券ヲ發行スルヲ得ヘシ但シ資本ノ半額ニ等シキ價格アル抵當權ヲ有スルコトヲ證明スルヲ要ス  
土地證券發行ノ基コトナキ貸付ヨリ生シタル抵當權ハ其償却サル、コトニ償却額ニ均シキ價額ノ他

ノ同種類ノ債權ニ代ヘラル、カ又ハ償却額ト同一額ノ流通中ニ係ル土地證券ニ代ヘラル而シテ此證券ハ流通以外ノモノタル旨ヲ公告シ以テ其組合ノ金庫ニ貯藏スヘシ

本法第九條ノ規定ノ如ク銀行又ハ組合ノ爲メニ登記サレタル抵當ハ其發行セル土地證券ノ利子及ヒ償還金ノ擔保ニ供シ又タ貯藏ノ土地證券ハ流通中ニ係ル土地證券ノ利子及ヒ償還金ノ擔保ニ供スルモノトス

第二條 前條規定ノ外政府ハ勅令ヲ以テ土地所有者ノ組合ニシテ五百萬リ一レヨリ少ナカラサル價格ノ不動産ヲ所有スルモノニ本行ノ營業ヲ特許スルコトヲ得ヘシ而シテ右所有者カ具備スヘキ資格及ヒ土地證券ノ安全ノ爲ニスル擔保及處置ハ農工商大臣本法ニ從ヒ自ラ發案シテ之ヲ定ム但シ本項ノ場合ニ於ケル土地證券ハ抵當不動産價格ノ半ヲ超過スルヲ得サルモノトス  
前項ノ組合ハ貸付ノ約定又ハ償還及ヒ土地證券ノ發行又ハ償却ニ關スル本法ノ規定ニ違背スルヲ得ス

第三條 各組合ハ貸付ノ請求ヲ容易ニシ土地抵當銀行ノ事業ヲ發達セシムル爲メ勅令ニ依リ指定サレタル市ニ特別ノ事務所ヲ設クルコトヲ要ス貯蓄銀行慈惠會社及ヒ其他無形の團體ハ政府ノ許可ヲ經テ各事務所ノ職ヲ行フコトヲ得

第四條 土地抵當銀行ノ目的ハ左ノ如シ

- 第一 不動産ノ第一抵當ニ對シ其不動産價格ノ半額ヲ超過セサル限度ニ於テ濟シ崩シ法ヲ以テ償還スヘキ貸付ヲ爲スコト
- 第二 前記ノ條件ヲ具備セル抵當貸付又ハ特權付貸付ヲ濟シ崩シ法ニ依テ辨濟スヘキモノト爲シタル上讓權又ハ代位ノ方法ヲ以テ取得スルコト
- 第三 前記ノ業務ヲ土地證券ヲ發行シテ行フコト但シ證券ノ額面ハ借人ノ償還スヘキ貸付元金ノ同一額ナルヲ要ス
- 第四 抵當貸付ノ要件ト同一ノ要件ヲ備ヘタル抵當ト擔保ニ於テ出納計算ヲ開キ前拂貸付ヲ爲スコト
- 第五 國債證書ノ利子、國庫證券以太利銀行ノ仕拂手形、政府縣市町村ノ債券、及ヒ政府ノ保證又ハ保護ヲ有スル會社ノ利子又ハ配當金ノ徵收ヲ無償ニテ擔任スルコト但シ此徵收金額、出納計算ニ依テ受入ル、モノタルカ又ハ之レヲ土地證券ノ購入或ハ貸付償還金ノ仕拂ニ換用スル爲メ保護預リニスルモノタルカニ限ル
- 土地證券ニハ五分、四分半及ヒ四分ノ利子ヲ付シテ發行スルコトヲ得
- 若シ借主ノ請求カ特ニ耕地取得代價ノ支拂殘金ヲ辨濟スル爲メ又ハ永借權ノ負擔ヨリ耕地ヲ脱セシムル爲メナル時ハ本行ハ抵當價格五分ノ三ニ至ルマテ貸付ヲ爲スコトヲ得假令ヒ偶生的抵當權

- カ先ニ登記セラレタルモ若シ其抵當權ノ價格ニ貸付金額又ハ讓權或ハ代位ノ方法ヲ以テ取得スヘキ金額又ハ出納計算ニ於テ前拂スル金額ヲ合算シタル總額カ本法ニ規定ノ各種ノ場合ニ從ヒ不動産價格ノ半額又ハ五分ノ三ヲ超過セサルトキハ決シテ本行營業ノ妨害トナルコトナシ
- 第五條 已ニ登記サレタル抵當權償還ノ爲メニ爲ス貸付ハ若シ其償還ノ効力ニ依リテ組合カ抵當權ヲ有スル諸債主中ノ第一位ヲ占ムルニ至ルトキハ不動産ノ第一抵當ニ對シ爲シタル貸付ト見做サル
- 組合ハ償還ヲ受クル債權者ノ先取特權若クハ抵當權ノ代位ヲ全部檢定セサル前ト雖モ抵當品ノ缺乏ニ對スル擔保ノ爲メニ充分ナル金額ヲ取置クニ於テハ貸付ヲ爲スコトヲ得ヘシ
- 第六條 第四條ノ明文ニ依リ貸付ハ分テ左ノ二種トス
- 第一 年賦濟シ崩シ法ニ依テ償還サル、貸付但シ年賦濟シ崩シ金額中ニハ利子手数料取扱費及ヒ割引サレタル諸税金ヲ包含シ又月濟シ崩シ金額ハ十年ヨリ少ナカラス五十年ヨリ多カラサル期間ニ元金ヲ償還シ了ル様計算スルヲ要ス
- 本法施行規則ニ定ムヘキ規程ニ從ヒ及ヒ制限内ニ於テ抵當付納計算ヲ開キ前拂ニ爲ス貸付但シ其前拂金額ハ抵當ノ半額ヲ超過スルヲ得ス
- 各組合ニ於テ貸付ハ土地證券ヲ以テ之ヲ爲シ出納計算ニ依ル前拂ハ正金ヲ以テ爲スヘシ
- 貸付ノ利子ハ其貸付ノ爲メニ發行セル土地證券ノ利子ト其率ヲ同フス而シテ前拂ノ利子ハ各組合之



ヲ定ムヘシ法律ニ於テ豫メ之ヲ一定セス

組合ニ拂込ムヘキ利子年賦済シ崩シ金額及ヒ手数料等ハ貨幣ヲ以テスヘシ

組合ヨリ土地證券ノ所持人ニ辨済スヘキ利子及ヒ償却金ニ付テモ亦同シ

第七條 手数料及ヒ取扱費トシテ借主ハ契約ノ費用抵當ノ減少又ハ滌除ノ費用以外ニ利子及ヒ年賦済シ崩シ金額ト共ニ貸付元金ノ四厘五毛ヨリ多カラサル年額ノ金額ヲ拂込ムヘシ

其他借主ハ組合ヨリ國庫ニ納付スル税金ニ對シ元金ノ一厘五毛ヲ同組合ニ拂込ムヘシ

但シ右ノ稅額ハ現行抵當稅、登簿、印紙稅其他契約並ニ土地證券ノ發行流通ニ關スル諸稅割引ノ名義ニ於テ勅令ヲ以テ百分ノ一厘マテニ減少スルコトヲ得ヘシ

前拂ニ關スル稅額ハ普通法ニ依ル

第八條 借主ヨリ組合ニ拂込コトヲ要スル利子、年賦済シ崩シ金額手数料取扱費及ヒ税金ハ如何ナル故障アルト誰モ決シテ遲滯スヘカラス

組合ニ拂込ヲ要スル右ノ諸金額ハ其期限ノ當日ヨリ當然利息ヲ生スルモノトス

期限済ニ係ル前記諸金額ノ拂込ヲ遲滯シタル場合ニハ假令ヒ其遲滯力只タ一部金額ニ限ル時ト雖モ組合ハ即時ニ全部金額ノ支拂ヲ借主ニ要求スルヲ得ヘシ

借主ハ何レノ場合ニ於テモ第七條ニ規定セル手数料取扱費及ヒ税金ヲ組合及ヒ國庫ニ拂込ミタル上

ハ其義務ノ全部又ハ一部ヲ前以テ免ル、ノ權能ヲ有ス

手数料等ハ第一回ノ済シ崩シ償還金額ノ四厘五毛、税金ハ償還スヘキ元金ノ一部ニ前拂ニ拂込ム場合ニ於テハ恰カモ些少ノ金額モ未タ返還セサルカ如クニ最初ノ契約ニ於テ定メラレタル割引税金ノ年額トス尤モ償還スヘキ元金ノ全部ヲ前拂ニ拂込ム場合ニ於テハ割引税金未納年額四分ノ一ニ減少サルト雖トモ之ヲ償還金額ト相合シテ一時ニ支拂コトヲ要ス

元金ノ全部又ハ一部ヲ貨幣ニテ先拂ニ返済スル場合ニ於テハ借主ハ手数料及ヒ税金ノ外ニ尙ホ次期ノ抽籤ノ結果ニ因テ土地證券カ償却サル、モノトナル時マテノ利子ヲ計算シテ拂込ムヘキヲ要ス但シ組合カ借主ノ請求ニ因リ許容シタル金額ノ使用ヨリ生シタル菓實ヲ以テ其差引ヲ爲ス場合ハ格別ナリトス

本條第四項ニ記シタル手数料取扱費及ヒ税金ハ契約不履行其他諸種ノ原因ニ依リ組合カ其貸付金ヲ即時ニ取戻ス權利ヲ行フトキニ於テモ借主ハ之ヲ拂込コトヲ要ス

借主ヨリ拂込金額其約定シタル年賦済シ崩シ金額ニ達セサルトキ又ハ借主其年賦済シ崩シ金額ヲ一年兩期ニ分チテ拂込マントスルトキハ其借主ノ原借主タルト又其嗣子若クハ相續人タルト問ハス組合ハ其支拂ヲ拒絶スルヲ得ヘシ

済シ崩シ法ニ依レル貸付金ノ全部又ハ一部ノ先拂ニ土地證券ヲ其額面價額ヲ以テ使用スルヲ得ヘシ

但シ其證券ノ利子ハ貸付金ノ利子ト同率ナルヲ要ス

十萬「リール」ヨリ多カラサル貸付金ニ付テハ借主其五分ノ一ヲ償還シ了ルトキハ登記シタル抵當ヲ其割合ニ應シテ減少スル權利ヲ有ス十萬「リール」以上ノ場合ニハ其十萬「リール」ニ付テハ五分ノ一、其超過額ニ付テハ十分ノ一ヲ償還シ了リタル後抵當ノ一部ヲ減少スル權利ヲ有ス以上二個ノ場合ニ於ケル一部ノ減少ハ公證人ノ有効ニ爲シタル組合長ノ申告書ヲ抵當物保管員ニ提出シテ執行サルヘシ

第九條 發行セル土地證券ノ總額ハ抵當權ノ全額ニ依テ擔保サレ又貸付ヨリ生セル債權ハ他ノ諸件ニ先タテテ土地證券ノ利子及ヒ償却ニ供セラル但シ土地證券ノ所有者ハ組合ニ對スル外他ニ向テ利子ノ支拂及ヒ償却ヲ請求スルヲ得ス

土地證券ハ別符付帳簿ヨリ切斷チ其發行ノ順序ニ從ヒ管轄公證人ニ依テ手署サルヲ要ス  
土地證券ハ無記名又ハ記名尙ホ又無記名利子札付記名證券ト爲スヲ得ヘシ記名證券ノ讓渡ニ關シテ讓權ノ當時組合ニ對スル信用ヲ擔保トスルノ外一切他ノ擔保ヲ要スルコト無キヲ以テ單ニ裏書ノミヲ以テ其讓渡ヲ爲スコトヲ得記名土地證券紛失ノ場合ニハ規則ノ定ムル所ニ依ル  
記名證券ノ記名利子札ヲ紛失又ハ毀傷シタルトキハ其證券ヲ發行セル組合ハ其届出ヲ爲シタル記名者ニ對シ其支拂ヲ爲スヘシ尤モ其證券ニ記シタル期限ヨリ五ケ年間ヲ經過スルモ支拂ヲ受ル爲メ其

利子札ヲ提出スル者ナキ場合ニ限ル

流通土地證券ノ償却ハ毎半期ニ抽籤法ニ依リテ執行サル而シテ抽籤スヘキ土地證券ノ總額ハ前半期間ニ各借主カ拂込タル濟シ崩シ償還金ト又同期間ニ元金償還ノ爲メ正金ヲ以テ先拂ニ拂込ミタル金額トノ合算額ヲ超過スルヲ得ス

流通中ニ係ル土地證券カ各種ノ利率ヲ有スルトキハ組合ハ證券ト利率ノ同キ償還サレタル抵當貸付金額ニ均シキ土地證券ヲ其各利率コトニ別々ニ抽籤スヘシ

土地證券ノ償還金ハ其償還後ニ同證券ノ所持者受領セスト云フト雖トモ組合ハ之ヲ既ニ受領シタルモノト見働ス但シ抵當資本ノ缺乏セル場合ノ如キ例外ハ此限ニ在ラス

抽籤ハ之ヲ公行ス返還サレタル當籤證券ハ規則ニ定ムル方式ニ從テ組合其取消ヲ行フヘシ當籤證券ハ其抽籤執行ノ半期間以後ニ於テハ利子ヲ生セス

各當籤證券ハ官報ヲ以テ公告スヘシ

第十條 土地證券ハ各貸付會社ノ定款ニ定メタル制限内ニ於テ前拂ノ爲メニ抵當トシテ同會社ニ受取ラルヘシ又土地抵當銀行ヲ營業トスル會社ニハ時價五分ノ四ヲ限トシ特ニ該證券ノ買入ニ供セル資本金ノ盡クルマテ買入ラル

以太利銀行ハ同銀行條例ニ依リ持許セラレタル權利ヲ擴張シ土地證券ヲ預リ置キテ前拂ヲ爲シ又國

債ニ關スル其定款ノ條件ニ從ヒ擔保ノ爲メニ土地證券ノ利子札ヲ寄托若クハ讓渡シタル場合ニハ二個ノ單ナル手署アル手形ノ割引ヲ承諾スルヲ得ヘシ

第十一條 組合ハ土地抵當銀行業務ヨリ生シタル純益四分ノ一以上ヲ引去リテ準備金ヲ作ルヘシ但シ此資本金ハ第二十八條ニ記シタル規則ニ依リテ定ムル金額ヲ超過スヘカラス

右四分ノ一ヲ引去リタル殘額ハ特別規則並ニ定款ノ規定スル所ニ依ルヘシ

第十二條 組合ヲシテ第一位ノ抵當物件ヲ取得セシムル爲メニ借主ハ法律上合意上並ニ裁判上ニ於テ其先キニ登記シタル抵當ノ減少ヲ要求スルコトヲ得ヘシ

又借主ハ債權者ニ償還スヘキ金額ヲ支拂ヒタル上先取得權付又ハ抵當付ナル不動産ヲ滌除スルコトヲ要求スルヲ得ヘシ此場合ニ於テハ債權者ハ常ニ右負債ノ前拂ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ支拂ハ普通法ノ規定ニ依リ充用ノ條件ニ從フコトヲ要ス

第十三條 組合カ貸付ヲ爲スヲ適當トスルトキハ借主ト條件付ノ契約ヲ爲スヘシ但シ抵當物保管員ノ證狀ニ依リ他ノ前順位ナル登記ノ存在セサルコトヲ明ニスヘシ

前項ノ如ク爲シタル後組合ハ確定契約ヲ締結シ受取證書ト引替ニ貸付金ノ金額ニ相當スル額面ノ土地證券ヲ借主ニ交付スヘシ

右確定契約ノ謄本ヲ抵當物保管員ニ提出スル時ハ該官ハ已ニ爲シタル登記簿ノ欄外ニ土地證券ノ發

行ト共ニ支拂ヲ執行サレシ旨ヲ記入シ且ツ欄外記入ヲ爲シタル旨ヲ最初ノ登記ノ傍ニ追記スヘシ

税金及ヒ公證人並ニ抵當物保管員ノ手數料ニ關シテハ公正證書ト又受取證書トニ依リテ締結サレタル契約、其登記及ヒ前項ニ記シタル欄外記入ハ單一一個ノ契約一個ノ抵當登記事務及ヒ一個ノ證狀ト視做サル

第十四條 組合ノ爲メニセル抵當ノ登記ハ假令抵當提供者カ其後倒産シタル場合ト雖トモ有効ナリトス但シ此登記ハ其支拂停止以前ニ係リ且ツ裁判宣告前少クモ十日間ヲ隔ツルモノタルコトヲ要ス

第十五條 組合ノ爲メニセル抵當ノ登記及ヒ組合カ代位又ハ讓權ノ方法ニ因リテ取得シタル抵當ノ登記ハ抵當物保管員法律ニ規定セル期間及ヒ方法ニ依リ職權ヲ以テ更新スヘシ

第十六條 借主ノ包括相續人及ヒ特別名義若クハ包括名義ノ相續人ハ式ニ從テ組合ニ通知スルコトヲ要ス然ルトキハ此等ノ者ハ抵當不動産ノ占有並ニ享益ヲ有シ不動産所有地ノ管轄裁判所々在地ニ其住所ヲ撰擇スルヲ要ス而シテ組合ハ原借主ニ對スルト全ク同様ノ方法ヲ以テ此等ノ者ト取引スヘシ右ノ通知ヲ缺キタル場合ニ於テハ前記ノ登記ハ凡テノ法律上ノ結果ヲ生ス即チ差押、支拂督促及ヒ競賣等ノ諸行爲ハ發記簿ニ掲名サレタル借主ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得而シテ右抵當不動産カ死亡、賣却其他諸種ノ名義ニ因リ又ハ其不動産ノ一時ノ享益カ分割セラレ或ハ分割スルコト無クシテ一人若クハ數人ノ相續人又ハ第三者ノ手ニ移リタル場合ニ於テモ此等ノ行爲ヲ行フコトヲ得ヘシ

第十七條 禁治産者、未丁年者、有夫ノ婦及ヒ法律、規則、合意若クハ遺囑ニ由リ抵當付ノ貸付若クハ不動産ノ取得等其他ニ用フルコトヲ要スル資本金ハ土地證券ノ購入ニ使用シ又ハ該證券ニ變換スルコトヲ得

第十八條 國債證書ニ對スル偽造變造等ノ罪科ヲ規定シタル刑法ノ條文ハ之ヲ土地證券ノ偽造變造等ノ場合ニ適用スルコトヲ得ヘシ

第十九條 土地證券及ヒ其利子ハ出納計算ヲ以テ得タル債權ト均シク之ヲ差押ユルコトヲ得サルモノトス

第二十條 組合ハ規則ニ從テ各帳簿ヲ登録スルトキハ其原簿及ヒ其抜書ハ裁判上ニ於テ借主並ニ第三者ニ對シテ充分ナル信用ノ効力ヲ有ス

第二十一條 年賦償還金ノ徵收ニ就テハ組合ハ滯納借主ニ對シ政府カ動産上ノ執行ニ關シテ直稅收入ノ爲メニ用フル手續ト同一ナル手續ヲ用フルコトヲ得

第二十二條 民事訴訟法第五百五十七條ニ規定セル所ノ執行力アル謄本ヲ請求スルニ當リテハ組合ハ豫メ之ヲ借主ニ通知スルノ義務ナシトス然レトモ管轄裁判官ハ組合ハ單ナル請求アレハ直ニ之ヲ借主ニ告知スルコトヲ命スヘシ

第二十三條 民事訴訟法ニ規定スル所有權取上ケ手續ニ左ニ改定ヲ加フ

第一 支拂ノ督責ハ借用證書ニ記シタル選擇ハ住所ニアリテ借主、其嗣子及ヒ相續人ニ通知セラルヘシ且ツ他ノ諸行爲及ヒ宣告ノ通知ノ爲メニ代理人ヲ設ケサル時ニ於テモ亦同シ

代理人ヲ設ケタルトキハ此等ノ行爲並ニ宣告ハ代理人ノ住所ニ通知セラルヘシ

第二 支拂ノ督責カ借主ニ通知サレタル日ヨリ組合ハ其所有權ヲ取上ケヲ爲ス權限ヲ有スル裁判所長ニ財産差押ヲ請求スルヲ得ヘシ而シテ右所長ノ與ヘタル命令ニ對シテハ抗告又ハ控訴ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

財産差押者ハ其財産ノ定時收益並ニ果實ヲ徵收シ其中ヨリ取扱費及ヒ税金ヲ引去リ剩餘アルトキハ之ヲ組合ノ金庫ニ拂込ムヘシ

他ノ債權者ノ訴訟ニ依テ任命サレタル財産差押者モ亦右ト同様ノ義務ヲ有ス

組合ハ財産差押者ヲ變更シ他人ヲシテ之ニ代ラシムルコトヲ裁判所長ニ請求スルヲ得ヘシ而シテ裁判所長ハ控訴ノ目的トナラサル命令ヲ以テ之ヲ處置スヘシ

財産差押者呼出シノ期限ニ付テハ民事裁判所長ハ通常期限ヨリモ遙カニ之ヲ短縮ニスルコトヲ得ヘシ

第三 組合ハ右不動産ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テハ貸付契約ニ定メラル代價又ハ民事訴訟法第六百六十三條ニ從テ爲シタル評定代價ヲ賣價トシテ右不動産ニ付スルコトヲ要

ス

右定價法ノ如何ニ拘ハラ組合ハ入札ヲ爲シ及ヒ前記第六百六十三條ヨリ生スル結果ニ從フ義務ヲ有セス若シ第一ノ競賣ニ於テ賣却サレサルトキハ民事訴訟法第六百七十五條ニ規定セル方式ニ依リテ再度競賣ヲ爲スヘシ

第四 若シ他ノ債權者カ已ニ所有權取上ノ手續ヲ執行シツ、アルトキハ組合ハ其手續ニ依テ其債權者ニ代位スルコトヲ得ヘシ

第五 裁判官ハ民事訴訟法ニ最長最短期限ヲ定メラレタル凡テノ場合ニ於テハ土地抵當銀行ノ利益ノ爲メニ最短期限ヲ指定スヘシ

第六 不動産ノ買得者ハ確定ノ賣買ヨリ二十日間ノ順次配當ノ手續ニ依ラスシテ元金、附屬費及ヒ費用ヲ包括スル組合ノ債權ニ相當スル代價ノ一部ヲ組合ニ支拂フヘシ若シ此支拂ヲ爲サ、ルニ於テハ法律承諾ノ諸裁判法ヲ受ケ自己ノ費用及ヒ危険ヲ以テ再度ノ競賣ヲ爲スヘシ但シ組合ハ順次配當ノ手續ヲ爲サ、ルカ爲メニ有益ニ配當ヲ受ケサル權利者ニ相當ノ利子ヲ支拂フ義務ヲ負フ落札人ハ競賣ヨリ二十日間ニ前項代價ノ一部ヲ支拂ハサルヘカラス他ノ債權者カ已ニ訴訟ヲ起シタルトキト雖トモ亦同シ

但此義務ハ賣却ノ條件中ニ包含サル、必要ナシトス

第二十四條 前條ニ規定ノ特別手續ハ土地抵當銀行ニ抵當トナシタル財産ヲ競賣シタル者ニ對シテモ之ヲ適用ス

土地抵當銀行ニ抵當トナレル不動産ヲ取得シタル者カ裁判上滌除ノ手續ヲ爲セントスルトキハ其確定取得ヨリ二十日間ニ組合ノ債權ニ相當スル代價ノ一部ヲ支拂フコトヲ要ス

第二十五條 土地抵當銀行營業ノ爲メニ本法ニ依テ許可サレタル裁判上及ヒ其他ノ特權ハ抵當財産カ縣市町村及ヒ其他ノ無形的團體ニ屬スルトキト雖トモ其効力ヲ生スルモノトス

第二十六條 土地抵當銀行ノ營業及ヒ其業務進行ノ狀況ハ之ヲ公ニスヘシ但シ其方式及ヒ期限ハ規則ニ規定スヘシ

第二十七條 土地抵當銀行ノ營業ヲ爲ス各組合ハ農工商務大臣ノ監督ヲ受クヘシ同大臣ハ規則ニ定ムヘキ方法ニ依テ之ヲ監督ス

第二十八條 本法ノ施行ヲ完全ニスル爲メ勅令ヲ以テ制可サルヘキ規則ヲ發布スヘシ  
右規則ニハ特ニ在ノ諸件ヲ規定ス

土地證券ノ形狀及ヒ其額面且ツ同證券ハ何レノ場合ニ於テモ百「リール」以下ノ額面タルヲ得ス  
證券ノ發行、償還證券ノ抽籤、償却濟證券ノ取消及ヒ破毀、記名證券紛失ノ場合ニ於ケル代證券  
交付ニ關スル規程

抵當ト爲スヲ得ヘキ不動産ノ性質及ヒ之ニ關スル條件

不動産價格評定ノ規定及ヒ抵當建物ヲ火災ニ罹ラシメサル様爲スヘキ責任並ニ注意期限中ニ抵當不動産上ニ起リタル變化即チ其價格ノ減少、占有ニ對スル妨害、所有權ノ侵害等ヲ借主ヨリ組合ニ通知スルコトニ關スル方法及ヒ期日

出納計算ニ關シ履踐スヘキ規則前拂ノ制限及ヒ要件

準備金ノ作成ニ關スル規程政府監督ノ範圍並ニ其執行方式

一千八百八十五年二月二十二日

羅馬ニ於テ

以	國	皇	帝	ウ	ン	ベ	ル	ト	手	署
大		臣		グ	リ	マ	ル	ヂ	イ	ト
大		臣		マ	リ	ヤ	ニ	ト	手	署

### 第三節 定 款

伊太利土地抵當銀行定款

#### 第一章 組織目的及ヒ期限

第一條 本行ハ無名會社ニシテ土地抵當銀行ト稱ス

第二條 本行ハ羅馬市ニ本店ヲ置キ他ノ首市ニ支店ヲ設クヘシ

第三條 本行ハ土地抵當銀行ニ關スル千八百八十五年二月二十二日ノ法律(同年三月六日第五十四號官報ニ掲載)及ヒ千八百九十年七月十七日ノ特別法律(同年七月十八日第百六十七號官報ニ掲載)ニ遵ヒ伊太利王國領内ニ土地抵當ノ業務ヲ行フコトヲ以テ目的トス

第四條 本行ノ營業期限ハ土地抵當ノ業務許可ノ勅令ニ記シタル日附ヨリ五ケ年間トス  
但シ本文ノ年限ハ滿限ニ至リ特別法律第四條ノ明文ニ據テ更ニ該業務ヲ許可サル、ニ於テハ延期スルヲ得ヘシ

#### 第二章 資本金及ヒ株券

第五條 本行ノ資本金ハ一億「リレ」定メ之ヲ二萬株宛十類ニ分チ且ツ一株ノ額面價額ヲ五百「リレ」ト爲ス

但シ四類分ノ株券引受ノ記入アリテ且ツ其引受代金拂込済トナルトキハ本行ハ既ニ成立チタルモノトス

第六條 拂込資本金ハ法律ニ定メラレタル規程及ヒ條款ニ從ヒ現金拂ニテ不動産抵當貸ニ使用スヘシ  
第七條 未タ貸付ニ使用セザル所ノ資本金ハ取締役ノ議決スヘキ分配法ニ從ヒ特別法律第八條ニ列記ノ證券買入ニ使用スヘシ

第八條 第一回ノ募集後資本金ハ毎會ニ萬株宛ヲ募集スヘシ

但シ特別法律第三條ニ從ヒ三ヶ年内ニ拂込資本金額五千萬「リレー」ニ達シタルトキハ本行發行券ノ總額拂込資本金ノ八倍ニ達スル迄其募集ヲ停止スヘシ

第九條 株券ハ順序ノ番號ヲ附シタル別符付帳簿ヨリ切斷テ發行シ且ツ之ニ二名ノ取締役署名スヘシ

第十條 本行ハ各株券ノ所有者ヲ一名ト認ム

但シ共有者ニシテ若シ本行ヘ對シ其共有株券ヨリ生スル權利ヲ行ハントスルトキハ其中ノ一名ニ代理ヲ委任スルヲ要ス

第十一條 株金ハ本行ノ金庫若シクハ取締役ヨリ指名スヘキ他ノ金庫ニ拂込ムヘシ

但シ發行ト同時ニ株券ヲ交付スルコト能ハサル場合ハ株金拂込ノ期日及ヒ手續ハ取締役之ヲ定メ期日ヨリ少クモ十五日前ニ官報ニ掲載シテ告知スヘシ

第十二條 株金ノ拂込ヲ怠リトキハ本行ハ商法第六十八條ニ據テ處斷シ怠納株主ヨリ年七朱ノ延滞利子ヲ徴收スヘシ

第十三條 株金ノ拂込ヲ終ラサル株主ニハ假ニ記名ノ證狀ヲ交付シ置キ全額拂込済ノ上法律ノ規定ニ從テ該證狀ト引替ニ無記名本株券ヲ交付スヘシ

第三章 銀行券

第十四條 本行ハ拂込資本金ヲ不動産抵當貸ニ使用スルニ從ヒ土地抵當銀行法律ノ規定ニ依リ右ノ貸付金ト同一額ノ銀行券ヲ發行スヘシ

又普通貸付金ノ代表トシテ拂込資本金ト準備金ノ十倍ニ均シキ價格マテ別種ノ銀行券ヲ製造發行スヘシ

但シ不動産抵當貸ニ使用シタル拂込資本金ヲ擔保トシテ發行シタル銀行券ヲ流通上ヨリ引戻シ之ヲ取消シタルトキハ本行普通貸付金ノ貸出ヲ承諾シ且ツ前項ニ定メタル制限内ニ於テ別種ノ銀行券ヲ製造發行スヘシ

第十五條 銀行券ハ別符付帳簿ヨリ切斷テ成規ノ如ク重役署名ノ上其番號ノ順序ニ依テ發行ス

利子額ノ異ナル銀行券及ヒ消却ノ時流通貨幣又ハ金貨ニテ元金ノ支拂ヲ爲サル可ラサル銀行券ハ各々其圖樣ヲ異ニ爲シテ區別スヘシ

銀行券ハ無記名又ハ記名ト爲スヲ得且ツ記名券ニ利子札ヲ添付シ置クモ妨ナシトス

記名券ハ無記名ニ無記名券モ鑑定費等ノ支拂ノ場合ニ在テハ記名ニ變更スルヲ得

第十六條 毎半期ニ本行ハ前半期間ニ負債者ヨリ償還シ來リタル貸付元金ト又同期間ニ貸付元金償還ノ爲メ現金ニテ前拂ニ其拂込タル金額トニ均シキ價額ノ銀行券ヲ其圖樣コトニ別々ニ抽籤ヲ行フテ消却シ但ツ當籤券ハ直ニ之ヲ取消スヘシ

第十七條 抽籤ハ之ヲ公ケニ執行シ當籤券ハ官報ヲ以テ廣告スヘシ

第十八條 本行ハ何時タリトモ元金ノ支拂ヲナスニ於テハ假令ヘ抽籤法ニ依テ消却スル豫定額ノ一部タル銀行券ニ非スト雖モ之ヲ流通上ヨリ引戻スコトヲ得且ツ該券ヨリ低利ノ銀行券ヲ發行スル權ヲ有ス

但シ右ノ引替ニ關スル條件及ヒ程式ハ特別法律第三十八條ニ規定サル

第四章 取 締 役

第十九條 本行ハ十一名以上十五名以下ノ人員ヨリ組織スル取締役ニ於テ管理サル

取締役ハ本行設置ノ年ニ於テハ規約書アト、コネツクテニ其姓名ヲ記シテ特選シ其翌年ヨリハ株主定期總會ニ於テ撰擧ス且ツ其任期ヲ三ヶ年ト爲シ各年其三分ノ一ヲ改撰ス

本行設立ノ年及ヒ其翌年ハ抽籤ニ依テ退任者ヲ定メ其以後ハ在任ノ最モ長キ者ヨリ退任ヒシム但シ退任者ト雖モ再撰ニ應スルコトヲ得

第二十條 取締役員三分ノ二ハ内國人タルヲ要ス

第二十一條 取締役ト就任前其持株百株ヲ本行ノ金庫ヘ附托スヘシ但シ在任中ハ他ニ讓渡スルヲ得ス

第二十二條 取締役ハ各年頭取一名副頭取一名及ヒ書記一名ヲ互撰スヘシ但シ頭取ハ内國人タルヲ要ス

書記ハ取締役以外ニ於テ選舉スルヲ得

又頭取ノ不在若クハ事故アル場合ニハ副頭取若クハ年長ノ取締役其代理ヲ爲スヘシ

第二十三條 頭取又ハ其代理人ハ取締役會議ヲ召集シ取締役ハ各月寡クモ一回本店ニ集會スヘシ尤モ開會ヲ必要トスル場合ハ此限リニアラス

第二十四條 頭取又ハ其代理人ハ自己ノ必要ト思料スルトキ若クハ三名ノ取締役又ハ事務長ヨリ開會請求書ヲ提出スルトキハ臨時ニ取締役會議ヲ召集スルヲ得定時及ヒ臨時會議ハ寡クモ開會期日一週間前ニ書面ヲ以テ召集ノ通知ヲナシ又緊急ノ場合ニハ寡クモ三日前ニ電文ヲ以テ通知スルヲ得ヘシ

第二十五條 取締役ハ本行ノ管理ニ關シテ最上權ヲ有ス

取締役ノ職權ハ左ノ如シ

第一 貸付金ノ契約抵當品ノ記入、放棄及塗消、訴訟事項千八百八十五年七月二十四日ノ規則第十條ニ規定サレタル條款ニ依リ及制限内ニ於テ執行スル不動産ノ臨時買入及ヒ競賣財産ノ讓渡、移轉、一部ノ放棄其他本行ノ管理ニ關スル裁判事項及裁判ニ屬セサル事項ヲ議決スルコト

第二 特別法律第八條ニ從ヒ未タ貸付ニ使用セサル資本金及ヒ準備金ノ使用ニ關シ其分配法ヲ定ムルコト

第三 貸付手數ヲ定ムルコト



第四 資本金一億「リレー」ニ達スルマテ株券ヲ發行シテ之ヲ募集シ且ツ其規約ヲ定ムルコト

第五 銀行券ノ製造發行ヲ議決スルコト

第六 内國ノ首市ニ支店ヲ設置スルトキ其位置ヲ定ムルコト

第七 本行ノ内則ヲ規定シ役員鑑定人ヲ任免スルコト

第八 右ノ外總會ノ職權ニ屬セサル一切ノ事項ヲ議決スルコト

取締役ハ常置委員ニ規定ノ制限内ニ於テ貸付金ノ議決ヲ爲ス權ヲ附與スルコトヲ得

第二十六條 取締役會議ノ議決ハ該會議ニ其全員半數以上出席スルニ非サレハ無効力トス

第二十七條 外國ニ居住スル取締役員ハ會議ノ都度普通ノ信書ヲ以テ其同僚ニ代理ヲ委囑スルヲ得ヘシ

但シ右ノ委囑ヲ受ケタル取締役ハ一名ノ缺席員ニ對シ其代理タルヲ得ルト雖モ數名ノ代理ヲ兼ヌルヲ得ス且ツ此場合ニ於テモ會議ノ議決ハ取締役ノ半數以上會議ニ出席スルニ非サレハ無効ニ歸スヘシ

第二十八條 議決ハ投票ノ多數ニ依リ缺席員ノ投票モ其中ニ算入ス

但シ同數ノ場合ニハ其議案ヲ擲棄ス

第二十九條 取締役會議ノ議決ハ法律ノ規定ニ從テ特ニ設ケタル簿冊ニ録載シ頭取又ハ其代理人及ヒ

書記之ニ手署ス

頭取又ハ其代理人及ヒ書記ノ手署シタル議決書ノ拔書ハ裁判所及必要ノ場合其他ニ提出シテ證據力ヲ有ス

第三十條 取締役員中ニ於テ死没若クハ退任スル者アルトキハ取締役ハ次期ノ總會マテ假リニ其後任者ヲ最多數ヲ以テ撰任スル權ヲ有ス

第三十一條 本行ニ義務ヲ生セシムル各證書類ニハ取締役一名及ヒ事務長若クハ二名ノ取締役手署スルヲ要ス

取締役ハ特別委員ヲ任命スルヲ得

第三十二條 各年總會ハ決算書提出ノ時手當金トシテ若干額ヲ取締役ニ給與ス而シテ取締役ハ總會ノ定メタル方法ニ依リ各員間ニ分配スヘシ

第五章 常置委員

第三十三條 各年取締役ハ頭取又ハ其代理人及ヒ四名ノ取締役ヲ以テ組織スル常置委員ヲ任命スルヲ得ヘシ

常置委員ノ議決ハ同委員三名以上出席及ヒ同意スルニ非サレハ無効トス

第三十四條 常置委員ノ職權ハ左ノ如シ

第一 取締役會議ニ提出ヲ要スル貸付金ノ議案ヲ調査シ之ヲ其意見書ヲ添付シテ同會議ニ提出スルコト

第二 取締役ヨリ定メラレタル制限内ニ於テ貸付金ノ議決ヲ爲スコト

第三 管理事務ノ進捗ヲ監督シ並ニ取締役ヨリ委任サレタル其他一切ノ職權ヲ執行スルコト

第六章 事務長

第三十五條 取締役ハ本行事務ノ取締ヲ爲サシムル所ノ事務長一名ヲ任命ス但シ事務長ニハ規則ニ定メタル俸給ヲ給與ス

第三十六條 事務長ハ裁判上ニ於テ又第三者ニ對シ本行ヲ代表ス

事務長ノ職權ハ左ノ如シ

第一 取締役會議及ヒ常置委員會ニ參列シ參考投票ヲ爲スコト

第二 貸付金ノ申込アルトキ其案ヲ立テ之ニ報告書及ヒ意見書ヲ添付シテ取締役若クハ常置委員ニ呈出スルコト

第三 取締役及ヒ常置委員ノ議決執行ヲ掌ルコト

第四 本行事務ノ指揮ヲ爲シ役員鑑定人ノ任免ヲ發議スルコト

第五 發送ノ通信書及ヒ第三十一條ニ據リ本行ニ義務ヲ生セシムル契約書及ヒ其他證書ニ手署スル

コト

第三十七條 事務長ノ不在若クハ事故アル場合ニハ取締役ハ其代理タルヘキ者ヲ指定ス右ノ場合ニ於テ若シ取締役ノ一名其代理ヲ爲サ、ルトキハ本行ニ業務ヲ生セシムル所ノ各證書手署ノ權ノミハ取締役之ヲ委任スヘシ

第七章 検査役

第三十八條 定式總會コトニ検査役三名乃至五名及ヒ検査役補二名ヲ撰任ス

検査役ノ職權ハ商法ニ定メラレタル所ニ依ル總會ハ検査役ニ給與スヘキ手當金額ヲ定ム

検査役及ヒ検査役補ノ退任者ハ再撰ニ應スルヲ得

第三十九條 検査役三分ノ一ハ内國人タルヲ要ス

第四十條 本行設置ノ年ニハ検査役及ヒ検査役補ハ規約書ニ其姓名ヲ記シテ撰任スヘシ

第八章 株主總會

第四十一條 株主總會ハ其定式タルト臨時タルトニ關セス株金拂込濟ノ株券一株以上ヲ所有スル所ノ者ヨリ組織サル

第四十二條 定式總會ハ各年一回四月前ニ商法第五百十四條ノ規定ニ從テ召集ス

臨時總會ハ法律ニ明示サレタル場合ノ外尙ホ取締役ニ於テ須要ト思料スルトキ之ヲ召集ス

第四十三條 總會ハ取締役之ヲ召集ス然シテ定式總會ナルトキハ集會期日二十日前ニ又臨時總會ナル

トキハ十五日ニ官報ヲ以テ其通知ヲ廣告スヘシ

定式總會ニ於テハ商法第五百十四條ニ明示ノ事項及ヒ議事日程ニ記載サレタル其他事項ヲ議決ス

第四十四條 各株主ハ參會ノ權ヲ證明スル爲メ其所有ノ株券ヲ定式總會ニ對シテハ集會期日十日前ニ

臨時總會ニ對シテハ五日前ニ本行ノ金庫若クハ召集通知ト共ニ取締役ヨリ告示スヘキ其他ニ提出且

ツ附諾スルヲ要ス

第四十五條 總會ニ對シ株主ハ委任狀ヲ以テ前第四十一條ニ從ヒ參會ノ權ヲ有スル他ノ株主ニ代理ヲ

委託スルヲ得ヘシ

但シ取締役及ヒ事務長ハ他ノ代理人タルコトヲ得ス

第四十六條 株主ハ其持株二十株マテハ投票一箇及ヒ同數以上ハ其持株タルト代理株タルトニ拘ハラ

ス二十株コトニ一箇ヲ爲ス權ヲ有スト雖モ百五十箇以上之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 總會ハ之ニ參同ノ株主ヨリ提出シタル所ノ株數若シ發行總株高五分ノ一以上ニ達セサル

トキハ成立タサルヘシ

第四十八條 頭取又ハ其代理人ハ總會ノ時議長トナリ出席株主中ニ於テ書記一名開票人二名ヲ撰任ス

第四十九條 總會ハ投票ノ多數ヲ以テ取締役ヨリ提出シタル各議案ヲ議決ス

第五十條 左ノ件々ハ參會權證明ノ爲メニ提出シタル株數發行總株高三分ノ一ニ達シ又投票者三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ決スルヲ得ス但シ特別法律第四條及ヒ第五條ニ依テ定メラレタル取  
除ハ此限ニアラス

第一 會社ノ解散

第二 營業期限ノ延期資本金ノ減額

第三 定款又ハ規約書ノ改定

第五十一條 參會權證明ノ爲メ提出ニ係ル株數若シ定數ニ滿タスシテ總會ノ成立タサルトキハ更ラニ

一ヶ月内ニ召集スヘシ

但シ其通知ハ再會期日十日前ニ官報ヲ以テ廣告スヘシ

第五十二條 更ラニ召集サレタル總會ニ於テハ出席株主ノ員數及ヒ提出株數ノ多寡ニ拘ハラス前ニ召

集サレタル總會ノ議事日程ニ記載ノ各事項ヲ議決スルヲ得且ツ其議決ハ有効トス

第五十三條 定式及ヒ臨時總會ハ之ヲ同一ノ議席及ヒ期日ニ開クヲ得而シテ若シ議事日程ヲ議了スル

コト能ハサルトキハ之ヲ議了スル迄會議ヲ次日ニ順延スルヲ得ヘシ

但シ會議ヲ次日ニ順延スルコト能ハサル場合ニハ議長ハ開會ノ期日ヲ定メ其期日ヨリ五日前ニ官報

ヲ以テ其旨ヲ廣告スヘシ

第五十四條 總會ニ於テ投票ノ同數ナル議案ハ總テ之ヲ擲棄ス

第五十五條 此定款ニ準據シテ執行シタル總會ノ議決ハ缺席株主及ヒ異議アル株主ト雖モ之ヲ遵奉スルノ義務アリトス但シ商法第百五十八條終尾二項ノ明文ハ格別トス

第五十六條 總會ノ議決ハ議事録ニ記載シ議長及ヒ書記之ニ手署スルヲ要ス但シ議事録拔書ノ謄本ハ裁判所又ハ其他ニ提出シテ證據力ヲ有ス

第九章 決算書、純益金及ヒ準備金

第五十七條 取締役ハ各年決算書ヲ調製シ検査役ノ檢閲ヲ經タル後株主總會ニ提出スヘシ

第五十八條 純益金ハ左ノ如ク之ヲ分割スヘシ

- 第一 準備金拂込資本金ノ五分ノ一ニ達スルマテ其積立ニ對シ純益金百分ノ五ヲ引去ルコト
- 第二 拂込額ニ割合ヒ利子ノ名義ニ於テ各株主ヘ其百分ノ六ヲ配當スルコト
- 第三 準備積立金及ヒ株主配當金ヲ控除シタル純益殘額百分ノ二十五ハ政府ニ納付スルコト
- 第四 殘額百分ノ二十五ハ準備金、拂込資本金ノ五分ノ一ニ達スルマテ其積立ニ引去ルコト
- 第五 殘額百分ノ五十ハ其使用方ヲ株主總會ニ於テ定ムルコト

第五章 露 國

第一節 沿革並ニ實況

露國ニ於ケル最初ノ不動産信用機關ハ波蘭、バルチック、クイランド、エストニア等ニ設立セラレタル地主組合ナリ一八七二年ニ始メテ株式組織ノモノ起リ一八八五年ニ貴族不動産銀行及農民銀行設立セラレタリ後者ハ農民ニ開墾地ノ地主タルコトヲ得セシメンカ爲メニ起リタルモノナリ貸付ハ長期ノモノハ抵當物價格ノ六割短期ノモノハ一割迄ニ限レリ貸付利率ハ普通四分五厘乃至五分ニシテ外ニ手數料ヲ拂フヘキモノトス債券利率ハ一八九八年以前ハ四分五厘ヲ超過セルモ借替ニヨリテ其利率ヲ抵クシ近頃貴族不動産銀行及農民銀行ハ三分五厘ヲ以テ二億七千三百萬ルーブル、四分ヲ以テ三千五百萬ルーブル借替ヘタリ而シテ一八九八年末ノ十四ノ不動銀行ノ總債券發行高ハ十二億八千六百萬ルーブル以上ニ達シタリ

露國各種不動産銀行景況一覽表

(一八九八年末日調單位ル) (ルーブルニフラン六七)

種 類	銀行數	資本金	抵當貸付	債 券	積立金
特權銀行	三	九三、七一七、七一	七五九、一四七、五七五	五六七、二二九、九〇〇	一一六、六七七、六四
株式銀行	四	二六、〇九六、〇〇〇	三八二、四〇〇、九〇七	三七〇、九三六、一〇〇	一三、一五一、四八八
金融銀行	七	—	三七一、七九四、四二五	三四七、五五〇、二九〇	二七、一七二、六八六

計	一四	一一九八三三七一	一五二二九九二九〇七	一、二八五、七六、二九〇	五〇、九九〇、六三八
---	----	----------	------------	--------------	------------

第二節 法律

農民土地抵當銀行條例

第一條 農民土地抵當銀行ハ地主ノ地所ヲ賣却セント欲シ而シテ農民ノ之ヲ購入セントスル場合ニ當リ農民ニ地所買入ニ要スル總テノ便益ヲ與フル爲メ設立スルモノトス

第二條 農民土地抵當銀行ハ大藏大臣ノ管理ニ屬スル官設ノモノトス

第三條 銀行ノ業務ハ帝國各地方中(西伯利亞後部高加索地方、波蘭王國諸縣、バルチック沿海諸縣ヲ除ク)大藏大臣、内務大臣ノ同意ヲ得テ銀行支店ノ設立ヲ要スル地方ニ漸次擴張スルモノトス

第四條 銀行ノ管理ハ銀行管理員及ヒ大藏大臣ノ指定スル役員三名ヲ以テ組織セル評議會ニ委任ス

第五條 各地方ニ於ル銀行業務ノ執行ハ大藏大臣ノ管督ニ依リ帝國銀行支店內ニ設ケタル農民土地抵當銀行ノ支店ニ委任ス帝國銀行支店ノ設置ナキ場所ニ於テハ國庫内ニ於テ又ハ獨立シテ支店ヲ設置シ業務ヲ執行ス

農民土地抵當銀行支店ハ大藏大臣ノ指定スル管理者ノ支店長ノ下ニ役員三名ヲ以テ組織ス其一名ハ各地ノ縣知事之レヲ指定シ其二名ハ地方縣會ニ於テ撰擧ス地方制ヲ施行セサル地方ニ於テハ縣農事

會ノ委囑ニ依ルモノトス

第六條 大藏大臣ハ内務大臣ノ同意ヲ得テ郡ノ市街ニモ銀行ノ支店ヲ開設スルヲ得、其支店業務ノ區域ハ其縣ノ一部又ハ數郡ニ擴張スルコトヲ得、郡ノ銀行支店ハ次ノモノヲ以テ組織ス即チ大藏大臣ノ指定セル支店長及ヒ縣知事ノ指定スル役員一名並ニ地方郡會ノ撰擧シタル又ハ地方制ヲ施行セサル地方ニ於テハ縣農事會ノ委囑ニ依ル役員二名トス

但シ銀行ノ郡支店業務ノ範圍ニシテ一郡以上ヲ包含スル場合ニ於テハ地方郡會ノ撰擧スヘキ役員ハ地方縣會ニ於テ撰擧ス

第七條 農民土地抵當銀行ノ評議會ハ次ノ事務ヲ取扱フモノトス

- 一、各地方毎ニ定メタル貸付制限金額(第十八條)ヲ超過セサル範圍内ニ於テ貸付ヲ許可スルコト
- 二、特別ノ價格ヲ有スル地所ニ對シ特別ノ貸付ヲナス時(第二十條)其許可ヲ大藏大臣ニ請願スルコト
- 三、貸付金及負債者ノ仕拂ニ關スル計算ヲ爲スコト
- 四、農民銀行證券ヲ發行スルコト(第九條)
- 五、仕拂納付ノ免除及ヒ期限分割ヲ許可シ又ハ期限延滞ノ場合ニ於テ財産ノ賣却ニ關シ支店ノ處分ヲ確認スルコト

第八條 農民土地抵當銀行支店ハ次ノ責任ヲ有ス

- 一、貸付金貸出ノ請求ヲ受クルコト及ヒ之ヲ確認スルノ手續ヲナスコト
- 二、賣主買主ニ事件ノ完結ニ際シ必要ナル報告ヲ送附シ補助スルコト
- 三、許可アリタル貸付金ヲ貸出スコト
- 四、負債者ノ蒙リタル不幸ノ場合(第二十九條)ニ於テ貸付金ニ關スル仕拂ノ免除及ヒ期限分割ヲ請願スルコト
- 五、期限ヲ延滞セシ貸付金ノ督責ニ關スル處置ヲ爲スコト

第九條 農民土地抵當銀行ノ貸付金ハ農民土地抵當銀行帝國證券ト名稱セル有利證券ヲ發行シ銀行ノ收入スル現金ヲ以テ之ニ充ツ

但シ此證券ノ兌換及ヒ消却ハ帝國銀行ヲ經テ施行ス

第十條 毎年五百萬留ヲ超エサル制限内ニ於テ農民土地抵當銀行證券ノ發行ヲ許可スルコトヲ大藏大臣ニ委任ス若シ此規定ニ超エテ發行ヲ爲スノ必要アル時ハ大藏大臣ハ規定ノ手續ニ依リ之カ勅裁ヲ乞フヘシ

第十一條 農民土地抵當銀行證券ノ額面價格ハ百留、五百留、及ヒ千留ノ三種トス

第十二條 農民土地抵當銀行證券ハ年五分五厘ノ利ヲ付ス

第十三條 農民土地抵當銀行證券ハ前二半季内ニ於テ負債者ヨリ收入シタル消還納付金額ヲ以テ毎年抽簽法ニ依リ之ヲ消還スルモノトス(第二十六條、第二十七條)

第十四條 證券ノ利子仕拂及ヒ元金返還ハ農民土地抵當銀行ニテ抵當トシテ取リタル地所並ニ政府ノ公金ヲ以テ保證スルモノトス

第十五條 農民土地抵當銀行證券ハ次ノ特權ヲ有ス

- 一、證券ハ次ノ諸仕拂ニ額面價格ヲ以テ採用スルモノトス
  - 一、農民土地抵當銀行並ニ舊國立銀行ヨリ貸出シタル貸付金ニ關シ負債元資ノ一部仕拂並ニ負債者ノ爲スヘキ利子仕拂
  - 二、租税ノ仕拂國庫ヘノ納付義納金錢出納ノ不足過料等ニ依リ官ヨリノ負債消還仕拂
- 二、證券ハ國立銀行紙幣ト同質ノモノトシ請負又ハ一般ニ國庫ニ對スル一個人ノ義務ニ關スル抵償ニ採用サル、モノトス

第十六條 農民ノ地所買入ヲ補助スル貸付金ハ次ノモノニ貸出スモノトス

- 一、全村組合(此組合ハ數村又ハ一大村ノ一部分ヨリ成ルモ妨ケナシ)
- 二、農民組合ニシテ農民ノ數三名ヲ下ラス其地所買入ハ組合全體ノ爲メ又ハ其一個人ノ爲メニシテ其貸付金ニ關スル諸仕拂ヲ共同シテ保證スルモノ

三、農民一個人

第十七條 貸付金ノ額ハ次ノ件ヲ以テ計算ス即チ組合全體ノ利益ノ場合ニハ其男子ノ人數又一部ノ利益ノ場合ニハ家主ノ人數トス總テノ場合ニ於テ貸付金ノ最多額ハ何レノ地方ヲ論セス次ノ制限ヲ超ユヘカラス即チ組合全體ノ利益ノ場合ニ於テハ村組合又ハ農民組合ニ於ル農民一人ニ付百貳拾五留又一家ノ所有ノ場合ニ於テハ各家主ニ付五百留トス(第十八條)

第十八條 第十七條規定ノ制限ニ於テ銀行ノ補助ニ依リ買入ヘキ地所ニ對スル貸付金ノ各地方ノ定額ハ内務大臣及ヒ官有財産事務大臣ノ同意ヲ得テ大藏大臣之ヲ定ム

第十九條 銀行ヨリ貸付金ヲ請求スル農民ハ地所賣主買主双方記名シタル契約書草案ヲ其公證人、裁判官或ハ州廳ノ證明書ト共ニ提出スヘシ此契約書草案ニハ次ノ件ヲ正確ニ示スヘシ即チ地所ヲ買入ル農民ノ人數買入ルヘキ坪數(坪ト稱スルハ原語「デシヤチン」ニシテ我一町一反四畝八步ニ當ル)各坪ノ買入値段トス若シ賣主ト契約セシ價格銀行ヨリ得ヘキ貸付金ニ超過スル時ハ前段契約書ニ於テ買入値段ノ足ラサル部分ヲ地所賣主ニ仕拂フ財源及ヒ手續ヲ揭示スヘシ  
此他地所ヲ買入ル農民ノ願書ニハ次ノモノヲ添ユヘシ即チ全村組合ノ地所ヲ買入ル、場合ニハ千八百六十一年二月十九日規定農民條例第五十四條ニ依リ且ツ其農民ノ三分ニハ村邑會ニ於テ發言權ヲ有スル者ノ作爲シタル契約書ニシテ州廳ノ證明シタルモノ又農民組合ノ地所ヲ所得スル場合ニハ定

期ニ貸付金ニ關スル仕拂ヲ爲スコトヲ其組合員共同シテ保證スル約定書、此約定書ハ之ニ加ハル總テノ者ニテ記名シ且ツ契約書ノ如ク州廳ニテ證明ヲ受クヘシ

第二十條 特別ノ場合又ハ銀行ノ補助ヲ以テ買收シ得ヘキ地所ノ部分ニ特別ノ價格ヲ有スル地所例ハ麻圃菜圃等ヲ含ム時ハ貸付金ハ地方參事會ノ請願ニ依リ第十八條ノ規定ニ依ラス増加シタル金額ヲ以テ貸出スモノトス此ノ如キ貸付金ハ次ノ場合ニアラサレハ許可セサルモノトス

一、地所ノ價格ハ實際ニシテ且ツ全ク保證サレタル收益ニ基キタルモノニシテ各地方郡參事會ノ之ヲ確定シテ公ニセシモノナラサルヘカラス

二、貸付金額ハ其價額ノ七割五分ヲ超ルヘカラス

三、各貸付金ハ銀行評議會ノ提出ニ依リ大藏大臣ノ特許ヲ得ルニアラサレハ貸付セス  
千八百八十三年五月四日次ノ如ク命令ス地方制ヲ施行セサル諸縣ニ於テハ農民土地抵當銀行第二十條及ヒ第二十九條ニ規定シタル郡參事會ノ義務ハ郡信用事業會及ヒ其會員ニ附託ス此規定ナキ地方ニ於テハ郡仲裁會及ヒ仲裁人ニ附託シドンスカヤ州ニ於テハ郡農事會及ヒ其會員ニ附託ス  
但シ條例中前示セル諸條ニシテ法律上ノ手續ヲ以テ解説スル迄臨時ノ方法トス

第二十一條 農民土地抵當銀行ノ補助ヲ以テ買入ルヘキ土地ノ所有證券ハ普通證印稅ヲ課ス

一、五拾留以上ハ一枚ニ付六拾哥

二、五拾留未滿ハ一枚ニ付拾哥

前示セル所有證券ハ所有權稅及ヒ證書手数料ヲ免除ス第十九條規定ノ買入ニ依テ作為シ或ハ銀行本支店、裁判所、公證役場、行政廳ノ附與スル諸證書ハ證印ヲ免除ス

第二十二條 農民土地抵當銀行ノ補助ヲ以テ買入タル地所ニ付着セル負債ノ終局ノ消還ニ至ル迄其地所ノ讓渡ハ銀行ノ同意アリ並ニ第十六條及ヒ第二十條ニ規定シタル個條ヲ遵守スルニアラサレハ之ヲ許サス

第二十三條 農民土地抵當銀行ヘ抵當トセシ地所ヲ賣却セシトキハ其收得金ヨリ第一ニ銀行負債ヲ仕拂ヒ次ニ負債主カ地所買入ノ際仕拂ハサル前地主ニ對スル負債ニ及ホスモノトス此等ノ負債ニハ官私ノ督責ニ先タツ特權ヲ附與ス

第二十四條 地所ヲ抵當ト爲シタル貸付金ニ關シ仕拂ノ納付ヲ負債者ニ於テ懈怠スル時此地所ニ對シ銀行ノ法律上ノ督責ヲ爲ス權利ハ銀行ヘ抵當トセシ地所ヲ貸與スル契約又ハ負債者ニテ取結タル他ノ約定ニ依テ妨ケラレサルモノトス

第二十五條 農民土地抵當銀行ノ貸付金ハ負債者ノ望ニ依リ二十四年半期限及ヒ三十四年半期限ノ二種ニ於テ貸與スルモノトス

第二十六條 銀行ヨリ貸付金ヲ得タル村組合農民組合及ヒ農民一個人ハ大藏大臣規定ノ期限ニ於テ每

半季次ノ通り納付セサルヘカラス

一、利息二分七厘五毛

二、二十四年半期限貸付金ノ消還ノ爲メ一分、又タ三十四年半期限ノ貸付金ノ爲メ五厘

三、銀行管理費及ヒ準備資金ノ設置ノ爲メ五厘

第二十七條 負債者ハ希望ニ依リ其負債ノ期限外拂トシ第二十五條規定ノ期限ヨリ短縮シテ拂戻スコトヲ得、貸付金消還ニ關シ第二十六條ニ規定シタル納付以外ニ負債元金ノ一部仕拂毎ニ毎年支出額ノ内ニテ相當ノ減價ヲ爲スモノトス

第二十八條 規定ノ期限内(第二十六條)ニ於テ負債者ノ果サ、ル仕拂ハ滞金ニ計算ス而シテ其期限以後各延滞月毎ニ未拂高ニ對シ五厘ノ過料ヲ徵收ス

第二十九條 期限延滞ハ負債者ノ蒙リタル不幸例ヘハ火災、洪水、霰害、家斃、畜死、蝗害、凶荒、負債者ノ頓死或ハ重病等ヨリ生セシコトヲ郡農事會(地方制ヲ施行セサル地方ニ於テハ郡農事會)ニテ證明スル時ハ第二十八條規定ノ過料ハ負債者ノ願ニ依リ免除ス

第三十條 第二十九條規定ノ不幸ハ農民ノ家計ニ影響セシ損害ノ程度ニ依リ四半季以内滞金仕拂ノ延期ヲ許スコトヲ得貳箇年連續シテ不幸再演スル時ハ延期シタル滞金仕拂ノ期限分割ハ三箇年ヲ限リ負債ノ滞金ニ對シ六分ノ利子ヲ付シ一定ノ半季納付ヲ以テ許可スルコトヲ得



第三十一條 若シ免除許可セラレス及ヒ期限ヲ延滞セシ次ノ半季間ニ滞金ヲ完済セサル時ハ銀行ハ負債者ノ地所ヲ公賣ニ付スルモノトス

第三十二條 懈怠負債者ノ地所賣却ハ銀行ノ意見ニ依リ若シ負債者其滞金額ヲ抵當地所ヲ貸渡ニ付シ或ハ公共耕地ヲ設ケ或ハ懈怠負債者ニ屬スル地所ノ一部分ヲ任意ノ賣却ニ付シ或ハ銀行ニ於テ貸付金ヲ保證スルニ足ルト認ル其他ノ方法ニテ完済シ得ルコトヲ銀行ニ提出スル時ハ之ヲ廢止スルモノトス

### 第六章 白耳義國

#### 第一節 實況

白耳義國ニ於ケル土地抵當ニ關スル制度ハ重要ナル地位ヲ占ムルモノニアラスシテ概言スレハ債券ヲ發行シ以テ得タル資金ニヨリテ抵當貸付ヲ爲スハ小サキ株式會社ナリ  
貸付ノ利息ハ百分ノ四ニシテ現金ヲ以テ之ヲ拂渡シ通常年賦ヲ以テ償却スルモノナリ又現ニ發行シタル債券ノ利息ハ百分ノ三ト四分ノ一乃至三、六〇ナリ  
此等匿名會社ノ外ニ貯蓄養老銀行ナルモノアリ此銀行ハ官立ノモノニシテ或ハ直接ニ或ハ地方ノ小サキ銀行ヲ經テ抵當貸付ヲ爲スモノナリ

市町村ノ借入ハ白耳義國ニ於テハ殊ニ市町村借入會社ト稱スルモノニ於テ之ヲ行フ此會社ハ數多ノ借主ヲ以テ成ル結社ニシテ株式會社ノ形式ヲ以テ千八百三十五年ニ設立セラレタルモノナリ此會社ノ株式ハ或ハ市町村或ハ府縣ニ於テ之ヲ引受ク又此會社ハ市町村又ハ府縣ノ借入レニ對シ債券ヲ發行シ以テ賣買シ易キ劃一ノ債券ヲ發行スルヲ以テ目的トス  
今左ニ千八百九十八年十二月三十一日現在白耳義國ニ於ケル土地抵當ニ關スル銀行會社ノ狀況ヲ示サ

名稱	資本	抵當貸付	債券	準備金	地主銀行	白耳義國抵當銀行	「リエーシ」貯蓄銀行兼	合計	貯蓄養老銀行	市町村貸付會社
「アントウエルブ」抵當銀行	五、〇〇〇、〇〇〇	二九五、四三三、七六五	二四、三四三、六三三	一、二四七、九二三	三、〇〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三三、〇〇〇、〇〇〇	〇	八、七三九、八〇〇
「アントウエルブ」抵當銀行	〇	一、二六六、一五六	三〇、六二二、七〇九	一、二〇七、二〇〇	〇	〇	九、六二七、六八四	〇	〇	〇
「アントウエルブ」抵當銀行	〇	三六、二六一、〇〇〇	三、五五一、〇〇〇	二、一六六、〇〇〇	〇	〇	〇	八六、五〇六、三四一	〇	〇
「アントウエルブ」抵當銀行	〇	〇	〇	〇	〇	〇	九、三一一、四六五	一三、九三二、五八八	〇	〇
合計	五、〇〇〇、〇〇〇	二九五、四三三、七六五	二四、三四三、六三三	一、二四七、九二三	三、〇〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三三、〇〇〇、〇〇〇	〇	八、七三九、八〇〇
貯蓄養老銀行	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、一三三	〇
市町村貸付會社	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一七三、五二五、六九〇
市町村貸付會社	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一七四、〇五二、五九九
市町村貸付會社	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	七、八三三、六五三

尙各銀行ニツキ其狀況ヲ述フヘシ

#### 第一 「アントウエルブ」抵當銀行

此銀行ハ株式無名會社ニシテ其主タル營業ハ左ノ如シ

#### 第一 抵當貸付ヲ爲ス事

第二 債券ヲ發行スル事

第三 委託セラレタル資金ノ預ケ入レヲ爲ス事(即チ貯蓄銀行)

第四 不動産ノ買入レ及ヒ一度ヒ買入レタル不動産ヲ賣却スル事

此銀行ハ「アントウエルブ」ニ設ケアリテ其資本金ハ五百萬法ニシテ之ヲ一株五百法ノ一萬株ニ分ツ  
 此銀行ハ重役四名ヨリ成ル重役會議ニ於テ之ヲ管理シ重役ハ株主總會ノ指名ニ係ルモノニシテ且ツ議  
 長ヲ互選ス此銀行ハ理事一名ヲ戴ク此理事ハ重役會議ノ選任ニ係ル又同行ノ監査ハ株主總會ノ指名ニ  
 係ル監査役二名ヨリ成ル監査委員會ニ於テ之ヲ掌ル

抵當貸付ノ償還ハ或ハ年賦ニ依ルモノアリ或ハ年賦ニ依ラサルモノアリト雖モ實際ニ於テハ年賦ノ方  
 法ノミ殆ント用ヒラル又同行ハ貸付ノ金額并ニ不動産ノ種類ニ關シテハ其定款ニ依リテ羈束セラレス  
 又貸付ハ債券ノ發行若クハ貯蓄銀行ノ預入ヨリ生スル資金ヲ用ヒ現金ヲ以テ之ヲ爲シ其利息ハ現今百  
 分ノ四ナリ

又債券ノ金高ト貸付金高トノ關係モ定款上一モ規定スル所ナシ其利息ハ重役集會ニ於テ定ムルモノニ  
 シテ目下百分ノ三ト四分ノ一ナリ

純益ニ就テ先ツ第一ニ株主ニ對シ百分ノ四ノ利息ヲ支辨スヘキ金額ヲ控除シ次ニ其殘額ニ付キ更ニ百  
 分ノ二十ヲ控除シ之ヲ準備金ト爲シ以テ此準備金ヲシテ資本金ノ十分ノ一ニ達セシム此他又非常積立

金ヲ設クルコトヲ得

年次	資本金	貸付金	負債金	純益
一八九六年				二八、二一三、五七七法
一八九七年				二八、八三四、五三七法
一八九八年	五、〇〇〇、〇〇〇法	二九、五四三、七六五法	二四、三四三、六三二法	三三、〇一七法 一、二四七、九二三法

第二地 主銀行

此銀行ハ千八百三十五年ニ三百萬法ノ資本金ヲ以テ設ケラレタルモノニシテ其内百五萬六千九百法ハ  
 全然拂込濟ナリ此銀行ハ抵當貸付ヲ爲スト雖トモ此レ其唯一ノ目的ニ非スシテ此他預金ノ受入ヲナシ  
 及ヒ一般ニ短期ノ債券ヲ發行ス

此銀行ノ管理及ヒ監査ハ重役會議及ヒ監査役ニ屬ス

長期ノ抵當貸付ハ或ハ年賦償還ニ依ルモノアリ或ハ然ラサルモノアリ

期限前ノ償還ハ契約中ニ規定アル手数料納付ノ上之ヲ許スモノトス  
此銀行ハ利息百分ノ三ト二分ノ一金額五百法ノ債券ヲ發行ス利息百分ノ四ノ債券ハ目下借換中ナリ

年次	一八八九年
資本	三、〇〇〇、〇〇〇法
貸付ノナシタル金高	
償還ヲ受ケタル金高	
十二月三十一日現在高	一、二、六六六、一五六法
利息	
割増金付債券	二、二、六八九、五〇〇法
定期債券	七、九二二、二〇九法
十二月卅一日ニ於ケル流通高	三〇、六一一、七〇九法
純益	七三、四六八法
十二月卅一日ニ於ケル準備金	一、二〇七、二〇〇法

第三 白耳義國抵當銀行

白耳義國抵當銀行ノ名ヲ以テ千八百三十五年ニ株式會社ノ設立アリ此銀行ハ抵當貸付ヲ爲シ債券ヲ發

行スルヲ以テ目的トス

同行ハ「ブリユツセル」ニ設ケアリテ其管理ハ左ノ者ニ屬ス

第一頭取一名

第二重役會議

重役會議ハ頭取一名及ヒ重役七名ヲ以テ成ルモノニシテ何レモ皆株主總會ノ指名ニ係ルモノナリ

又此銀行ノ監査ハ株主總會ノ指名ニ係ル十五名ノ監査役之ヲ行フ

抵當貸付ハ家屋ノ設アル又ハ設ケアラサル不動産ハ勿論建築中ノ家屋ニ對シテモ亦之ヲ爲ス貸付金高

ハ建築中ノ不動産ニ對シテノミ之ヲ限リテ其實價ニ對シ凡ソ百分ノ七十ト爲ス貸付ハ五年未滿ノ期限

ニ於テハ一時ニ又五年乃至六十年ノ期限ニ於テハ年賦ヲ以テ償還スヘキモノトス年賦ニヨリ償還スヘ

キ貸付ハ白耳義國生命保險會社ト取結ヒタル生命保險ノ金額ヲ以テ之カ擔保トナスコトヲ得

貸付ノ利息ハ百分ノ四ナリ又期限前ノ償還ハ契約ニ定メアル手数料ヲ納付スルニ於テハ之ヲ許スモノ

トス

債券ハ貸付ヲ取結フニ從ヒ逐次之ヲ發行スルモノニシテ此債券ハ百法、二百法、五百法、千法又ハ千  
法ノ倍數タル金額ヲ以テ額面通り發行ス其期間ハ一定ニシテ五年以上十年以下トナス利息ハ現今百分



此銀行ハ千八百六十五年三月十六日ノ法律ヲ以テ設ケラレ政府ノ保證ノ下ニ行動スルモノナリ  
此銀行ノ資金ノ一部分ハ直接ニ又ハ此銀行ニ於テ承認シタル銀行ヲ經テ爲スヘキ抵當貸付又ハ農業貸  
付ニ供用ス

此銀行ハ「ブリユツセル」ニ設ケアリ其管理ハ之ヲ白耳義銀行ニ委任シアリト雖モ尙自治ノ權ヲ存シテ  
頭取一名及ヒ重役會議ヲ置ク而シテ此重役會議ハ評議員中ヨリ選舉セル重役六名ヨリ成ル又右銀行ノ  
監督ハ評議會ニ屬スル評議員及ヒ重役ハ勅令ヲ以テ之ヲ任命ス

此貯蓄銀行ハ抵當貸付農業貸付ノ外ニ農業銀行及ヒ職工住宅會社ニ貸付ヲ爲シ此貸付ハ之ヲ抵當貸付  
ニ流用スルコトヲ得

年次	一八八八年	一八九八年	一八九八年	一八九八年
貯蓄銀行ノ 一 抵當貸付ノ	二、一五三、七一九法	四、三九九、三九九法	三、五一五、〇三九法	四、五五七、六八九法
農業貸付 二			一、六一〇、三七七法	三六、二三六、一五〇法
銀行貸付 三			百分ノ二半	
總計 五			百分ノ三	
資本 六				
利息 七				
貸付ヲナシタル金高 八				
償還ヲ受ケタル金高 九				
十二月卅一日現在高 十				

第六 市町村貸付會社

此會社ハ借主ノ結社ニシテ千八百六十年無名會社ノ形式ヲ以テ「ブリユツセル」ニ設置セラレタルモノ  
ニシテ繼續期間ヲ九十九箇年トス此會社ハ市町村及ヒ府縣ノ借入ヲシテ便利ナラシムルヲ以テ目的ト  
ナシ其營業ハ市町村又ハ府縣借入ノ爲メ債券ヲ發行シ以テ數多ノ借入ニ對シ債券ヲ書一ニスルニアリ  
トス此會社ノ資本ハ一定ナラスト雖トモ右借入ノ呼稱資本ニ對シ百分ノ五未滿タルコトヲ得スシテ結  
合シタル市町村又ハ府縣ノ專有ニ係ル一株千法ノ株式ヲ以テスルモノナリ尤モ此株式ハ市町村又ハ府  
縣ニ於テ借入高ニ對シ百分ノ五ヲ控除シ以テ此會社ニ拂込ムモノナリ

市町村ニ於テ此銀行ヨリ受入レタル金額ハ償却法ニ依リ三十三箇年又ハ六十六箇年ニ償還スヘキモノ  
トス此等ノ金額ニ關シテハ市町村ハ此銀行ノ利益ノ爲メ二年賦ヲ申込ミ此年賦金ハ三ヶ月毎ニ納付ス  
ルモノトス又此年賦ノ利息ハ六十六箇年ニ償還スヘキ貸付ニ就テハ最初ハ百分ノ五ナリシモ逐次百分  
ノ四ト二分ノ一、百分ノ四、百分ノ三ト四分ノ三ニ遞減シタリ現今ニ於テハ此年賦ハ三十三箇年ニ償  
還スヘキ貸付ニ付テハ百分ノ五半ナリ市町村ハ期限前ニ其借入金ヲ償還スルコトヲ得ス

發行シタル債券ノ額面價格ハ百分ノ九ヲ超過スルヲ要シ此債券ハ割増金ヲ付シ又ハ付セスシテ償却スルモ  
ノトシ割増金ヲ付スル場合ニ於テハ其發行ハ大藏大臣ノ許可ヲ要ス債券ノ利息割合ハ固ヨリ貸付ノ利  
息割合ト相合セスシテ債券ノ利息割合ハ百分ノ四ト二分ノ一乃至百分ノ三ニ減シタリ債券發行ノ都度

利息、割増金及ヒ償却高ニ付テハ其一年分ハ此發行ニ關スル年賦金ノ總計ニ超過スルコトヲ得ス  
 純益ハ毎年拂込資本金ニ對スル百分ノ五ニ至ル迄之ヲ株主ニ配當ス而シテ其超過高ハ準備金ヲ爲スモ  
 亦大藏大臣ノ認可ヲ經テ株主ニ配當スルコトヲ得

年次	一八九八年
資本金	八、七三九、八〇〇 法
貸付	市町村貸付 一七三、五二五、六九〇 法 市町村債券 百分ノ三割増金付 二〇、三〇一、二九九 法 市町村債券 百分ノ四半割増金ナシ 五九九、一七三、〇〇〇 法
負債	市町村債券 百分ノ四同上 二〇、四五六、四〇〇 法 市町村債券 百分ノ三同上 七三、三七七、六〇〇 法
純益	八、一七二、五五六 法
備金	七、八八三、六五三 法

附 録

一、歐洲各國不動産銀行景況一覽表

國名	銀行數	資本金	抵當貸付	公共團體貸付	公共團體債券	積立金
佛 國	一	一、〇七〇、〇〇〇 法	一、〇七〇、〇〇〇 法	一、〇七〇、〇〇〇 法	一、〇七〇、〇〇〇 法	一、〇七〇、〇〇〇 法
獨 逸	七	七、〇〇〇、〇〇〇 法	七、〇〇〇、〇〇〇 法	七、〇〇〇、〇〇〇 法	七、〇〇〇、〇〇〇 法	七、〇〇〇、〇〇〇 法
澳 國	一	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法
白 耳 義	一	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法
丁 抹 義	一	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法
西 牙 抹	一	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法
和 蘭 牙	一	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法
伊 太 利	一	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法
那 威 威	一	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法
葡 國	一	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法
露 馬 尼 亞	一	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法
瑞 典	一	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法
瑞 西	一	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法	一、〇〇〇、〇〇〇 法
計		二、四一九、六五三 法	二、四一九、六五三 法	二、四一九、六五三 法	二、四一九、六五三 法	二、四一九、六五三 法

二、獨亞銀行不動產銀行部條例

保護地法第三條及領事裁判規則第三十四條ニ基キ在上海獨亞銀行カ左記ノ條件ニ從ヒ無記名抵當債券ヲ發行スルノ件ヲ認可ス

第一條 獨亞銀行内ニ土地ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲シ且ツ之ニ依リテ取得シタル抵當權ニ基キ無記名債券ヲ發行スルコトヲ目的トスル不動產銀行部ヲ設ク此不動產銀行部ハ特別ニ爲替約定ヲ締結シ且ツ特別ニ帳簿ヲ設ク

右不動產銀行部ノ實際ノ營業ハ獨亞銀行ノ青島支店ニ於テ之ヲ行フ

第二條 不動產銀行部ハ獨逸帝國宰相ノ監督ヲ受ク

右ノ監督ハ營業ノ全般ニ涉リ且ツ同部解散ノ場合ニハ清算ノ終了ニ至ルマテ存續ス

第三條 帝國宰相ハ全部ノ營業ヲシテ法律、本令、定款及其他ノ規定ニ適合セシムル爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

帝國宰相ハ殊ニ左ノ權限ヲ有ス

- 一、同部ノ帳簿及書類ヲ檢閱スルコト
- 二、理事ヨリ同部ノ營業處理ニ關スル報告ヲ徵スルコト
- 三、株主及理事會ニ代表者ヲ出席セシムルコト

四、法律、本令、定款其他ノ強制的規定ニ抵觸スル決議又ハ令違ノ實施ヲ禁止スルコト

帝國宰相ハ其監督權ノ行使ノ爲メニ委員ヲ任命シ且ツ銀行ヲシテ監督ノ費用ヲ其指定シタル金庫ニ支拂ハシメ且ツ其額ヲ定ムルコトヲ得

第四條 流通抵當債券券面額ノ引當トシテ常ニ少クトモ同額且ツ同率ノ利息付抵當權ノ存在スルコトヲ要ス但シ元則トシテ金貨名ヲ以テ發行シタル抵當債券ニ對シテハ金貨ヲ以テ償還スヘキ抵當權アルヘク銀貨ノ抵當債券ニ對シテハ銀貨ヲ以テ償還スヘキ抵當權ノ存在スルコトヲ要ス

帝國宰相ノ許可アルトキハ金貨名ノ債券ヲ銀貨ヲ以テ償還スヘキ抵當權ヲ以テ引當ツルコトヲ得但シ此場合ニハ普通ノ貸付範圍ノ四分ノ三丈ヲ引當トナスヘキモノトス本條ニ所謂銀貨トハ墨西哥弗ノ名ヲ以テ流通スル商貨ヲ指スモノトス百墨西哥弗ハ二百馬ト同價ト看做ス但シ此ノ割合ハ債券所有者ノ利益ノ爲メ必要ナル場合ニハ帝國宰相ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得

銀行カ抵當權ノ損失ヲ避ケンカ爲メニ抵當物ヲ自己ニ取得シタル場合ニハ此ノ取得前ニ銀行カ此抵當物ヲ債券ノ引當トシタル額ノ半額ヲ以テ債券ノ引當トスヘシ抵當權ニ對スル償還又ハ其他ノ理由ニヨリ銀行カ前記ノ引當ヲ有セサルニ至リ且ツ直ニ同額債券ノ償還ヲ爲ス能ハサルトキハ獨逸帝國銀行ニ於テ擔保タルコトヲ得ル有價證券又ハ現金ヲ以テ其不足額ヲ補充スヘシ

第五條 獨亞銀行ノ抵當債券發行額ハ拂込資本金ノ四倍ヲ超過スルコトヲ得ス

第六條 抵當債券上ニハ獨亞銀行ト債券債權者トノ間ノ法律關係殊ニ債券カ何時ニテモ償還セラルヘキコトヲ明記スヘシ

獨亞銀行ハ抵當債券ノ償還權ハ十ヶ年以内ニ限り放棄スルコトヲ得抵當債券所有者ノ側ニハ告知解除權ナシ又獨亞銀行ハ割増金付債券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 後條ニ掲クル抵當權ニ限り抵當債券ノ引當トナスコトヲ得

第八條 貸付ハ膠洲又ハ其他清國ニ於ケル領事裁判權地域ニ存在シ且ツ獨逸法ニヨリ作成セル土地臺帳ニ登記セラレタル建物付土地又ハ建物敷地ニ限りテ之ヲ爲ス

貸付ハ第一抵當權ニ對シテ之ヲ爲ス且ツ其額ハ土地ノ價格ノ半額ヲ超過スルコトヲ得ス但シ帝國宰相ハ土地價格ノ五分ノ三迄貸付ヲ爲シ得ル場合ヲ定ムルコトヲ得

建物敷地及未タ收益ノ程度ニ達セサル敷地ニ對スル貸付ハ全抵當貸付ノ十分ノ一以内ニシテ且ツ資本金ノ十分以内タルコトヲ要ス

第九條 土地ノ鑑定價格ハ周到ナル調査方法ニヨリテ確定シタル其土地ノ賣買價格ヲ超過スルコトヲ得ス尙此價格ノ決定ニツキテハ其土地ノ永續的性質及普通ノ利用方法ニ依リ何人ニ於テモ其土地ヨリ取得シ得ヘキ收益額ノミヲ審酌スルコトヲ要ス

第十條 獨亞銀行ハ鑑定規則ヲ作り帝國宰相ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 抵當貸付ハ現金ヲ以テ之ヲ爲ス但シ銀行ト債務者トノ間ニ明ナル合意アル場合ニハ抵當債券(其券面額ニテ)ヲ以テスルコトヲ得此場合ニハ債務者ハ同種ノ抵當債券ヲ以テ其券面額ニテ銀行ニ對シ返済ヲ爲スノ權利アルコトヲ書面ヲ以テ認ムヘシ

第十二條 貸付利率ハ債券利率ヨリ二分五厘以上超過スルコトヲ得但シ特別ノ場合ニハ帝國宰相ノ認可ヲ受ケテ右ノ利率ヲ超過スルコトヲ得

右規定ノ外貸付ニ關スル細則ハ銀行之ヲ定メ帝國宰相ノ認可ヲ受クヘシ但シ其細則中ニハ債務者遲滯ノ場合ノ責任及如何ナル場合ニハ銀行ハ期限前ノ償還ヲ請求シ得ルカヲ定ムヘシ

第十三條 獨逸帝國不動産條例第十六條乃至第二十一條ハ獨亞銀行ニモ之ヲ準用ス

第十四條 債券ノ引當タル抵當權、有價證券及現金ハ債券債權者ニ質入スヘシ

第十五條 抵當權ノ質入ハ抵當債券ノ引渡ニ依ルヲ妨ケス

質權設定契約ニハ民法第一二八一條乃至第一二八三條ノ適用ナキコト及債券ノ償還期ノ到來シタルトキハ銀行ノミカ抵當債權ノ取立ヲナスノ權アルコト並ニ銀行ニ對スル債務者ノ辨濟ノミカ有效ナルコトヲ定メ置クヘシ銀行ハ抵當債券ノ引當トスヘキ現金ヲ質權者代理人(第十七條)ニ引渡シ其保管ニ委スヘシ

第十六條 銀行ハ抵當債券ノ引當トシテ充分ナル前條以外ノ質物ヲ提供スルトキハ前ニ設定シタル質



權ノ放棄ヲ請求スルコトヲ得

銀行カ法律ノ規定又ハ貸借契約ニ基キ債務者ニ對シ抵當債券ヲ引渡ス義務ヲ負擔スル場合ニハ前項ノ條件ヲ缺ク場合ニ於テモ質權者代理人ハ銀行ニ抵當債券ヲ引渡スコトヲ要ス

銀行カ抵當債券者ニ對シ民法第一一四五條ノ行為ヲ爲ス義務ヲ負フ場合ニハ質權者代理人ハ民法第一一四五條ニ記スル場所ニ抵當債券ヲ供託スルコトヲ要ス

一部辨濟ノ記載ノ爲メニ債券ヲ銀行ニ引渡スコトニ關シテハ第十八條第四項ヲ適用ス

第十七條 不動産銀行部ニ一人ノ質權者代理人 (Pfandhalter) ヲ置ク、尙帝國宰相ノ見込ニ依リ伯林其他ノ地ニ質權者代理人ノ代理人ヲ置クコトヲ得質權者代理人ノ任命ハ獨亞銀行ノ意見ヲ聞キ帝國宰相之ヲ任命ス、此任命ハ何時ニテモ取消スコトヲ得

質權者代理人及其代理人ノ職務ハ帝國宰相ノ委員 (第三條) ヲシテ兼ネシムルコトヲ得

第十八條 質權者代理人ハ質權ノ取得、保全及行使ニ關シテ總質權者ヲ代理ス、又抵當債券ノ引當タル抵當債權、有價證券並ニ現金ニ關スル文書ヲ銀行ト相鍵ヲ以テ保管ヲ爲ス

質權者代理人ハ抵當債券ニ對シテ適法ノ引當アルヤ否ヤヲ注意スヘシ但シ鑑定價格カ帝國宰相ノ認可ヲ受ケタル鑑定規則ニ從ヒタルトキハ之カ眞價ニ適合スルヤ否ヤヲ調査スルノ義務ナシ

質權者代理人ハ抵當債券ノ引當タル抵當債權、現金及有價證券カ現實ニ質トセラレ居ルヤ否ヤニ注意

シ債券發行ノ際ニ其ノ債券ニ對シテ適法ノ引當アルコトヲ其ノ債券上ニ證明スヘシ

銀行カ一時的使用ノ必要ノ爲メニ債券ヲ必要トスルトキハ質權者代理人ハ一時之ヲ銀行又ハ其指定シタル第三者ニ引渡スヘシ

第十九條 質權者代理人ハ何時タリトモ不動産銀行部ノ帳簿及書類ヲ閱覽スルノ權ヲ有ス

銀行ハ抵當債務者ヨリノ元金ノ償還其他抵當債權ニ關シ且抵當債券者ノ利益ニ關スル重大ナル變更事項ハ直ニ質權者代理人ニ通知スルノ義務アリ

第二十條 質權者代理人ト銀行トノ爭議ハ帝國宰相ニ於テ之ヲ裁斷ス

第二十一條 質權者代理人及青島以外ニ於ケル其代理人ハ其職務ニ對シテ銀行ヨリ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得、此報酬ノ額ハ銀行ノ意見ヲ聞キ帝國宰相之ヲ確定ス

第二十二條 銀行ハ每半曆年末日ノ流通抵當債券總額及同日ノ抵當債券ノ引當タル抵當債權、有價證券及現金ノ總額ヲ三ヶ月以内ニ獨逸官報、膠州領官報及上海官報ヲ以テ公告スヘシ

全額ヲ以テ引當トナラサル有價證券又ハ抵當債權ヲ債券債權者ニ質入シタル場合ニハ公告ニハ引當不足額ヲモ載スルコトヲ要ス

第二十三條 獨亞銀行ノ年貸借對照表ニハ別ニ不動産銀行部ノ勘定欄ヲ設ケ左ノ事項ヲ載スヘシ

一、引當ト定メラレタル抵當債權有價證券及現金ノ總額

二、券面別並ニ利率別ニ流通抵當債券ノ總額

三、銀行所有ノ抵當債券ノ總額

四、延帶セル抵當貸付利息ノ總額

第二十四條 損益計算表ハ各科目毎ニ記載ヲナシ殊ニ同營業年度ニ銀行カ取得シタル貸付金利息、手  
數料其他ノ從タル給付並ニ銀行カ支拂フヘキ抵當債券ノ利息額ヲ掲クルコトヲ要ス

第二十五條 抵當債券ノ發行ノ際ニ生シタル較差損益ノ記帳方ニツキテハ帝國不動産銀行條例第二十  
五條第二十六條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 不動産銀行部ノ營業報告又ハ貸借對照表ニハ帝國不動産銀行條例第二十八條ニ掲クル年  
月日ヲ明瞭ナラシムヘシ

第二十七條 本令ニ於テハ土地債權モ抵當權ト同一ニ看做ス

第二十八條 左ノ事由發生スルトキハ帝國宰相ハ抵當債券發行ノ認可ヲ取消シ債權所有者ノ權利ニ拘  
ラス債券ノ回收ヲ命スルコトヲ得

一、銀行カ拂込資本金四倍以上又ハ制規ノ質權上ノ引當ナクシテ抵當債券ヲ發行シタルトキ

二、引當ニ不足ヲ生シ帝國宰相又ハ質權者代理人ヨリ戒告ヲ受ケタルニ拘ラス之ヲ補充セサルトキ

三、銀行カ支拂ヲ停止シ又ハ支拂不能ニ陥リタルトキ

帝國宰相ハ以上ノ事由ナキ場合ニモ此ノ認可賦與ノ時ヨリ三十ヶ年後ハ同様ノ權能ヲ行使スルコト  
ヲ得

第三條ニ掲クル帝國宰相ノ一般の權能ハ本條ノ爲メニ妨ケラル、コトナシ

第二十九條 發行抵當債券ノ引當タル抵當物カ膠州領ニ於テ登記セラレタルモノナルトキハ抵當權額  
ノ二厘五毛ヲ毎年膠州金庫ニ納付スヘシ但シ第一回ノ債券發行ノ時マデノ貸付額ハ之ヲ計算セス納  
付金ハ毎年遅クトキ三月迄ニ帝國宰相ノ定ムル所ニヨリ拂込ムヘシ

抵當物カ公共團體權ヲ有スル獨逸ノ殖民地ニ於テ登記セラレタルモノナルトキハ其殖民地廳ニ前項  
ノ納付金ヲ爲スヘシ

一九一〇年一月二十四日伯林ニ於テ

帝國宰相フホン、ベトマン、ホルウーエーヒ。

大正六年六月十九日印刷

# 大藏省銀行局

印刷者

東京市京橋區高代町四番地

高島幸三郎

電話京橋 一五四七番

印刷所

東京市京橋區高代町四番地

高島印刷所

終